

第5回保育士養成課程等検討会

- 1 日時 平成22年2月26日（金）10:00～12:00
- 2 場所 厚生労働省 19階 専用第24会議室
- 3 議題 保育士養成課程の教科目（科目名、目標、教授内容）等の見直しについて
- 4 配付資料
 - 資料1 保育士養成課程の改正案
 - 資料2 教科目の教授内容の改正案
 - 資料3 保育士試験出題範囲の改正案
 - 資料4 開講時間数についての試算（矢藤委員提出資料）
 - 資料5 4年制養成課程等について（大嶋委員提出資料）
 - 資料6 保育士の研修体系（上村委員提出資料）
 - 参考資料1 第4回保育士養成課程等検討会における主な意見
 - 参考資料2 意見書（網野委員提出資料）
 - 参考資料3 保育士養成課程の改正内容について
 - 参考資料4 横浜市の研修計画（山本委員提出資料）

平成22年2月26日

保育士養成課程の改正案

	現行			改定案		
	系列	教 科 目	履修単位数	系列	教 科 目	履修単位数
教養科目		体育（講義）	1		体育（講義）	1
		体育（実技）	1		体育（実技）	1
		その他	6		その他	6
	教養科目 計		8以上	教養科目 計		8以上
必修科目	保育の本質・目的の理解に関する科目	社会福祉（講義）	2	保育の本質・目的に関する科目	保育原理（講義）	2
		社会福祉援助技術（演習）	2		教育原理（講義）	2
		児童福祉（講義）	2		児童家庭福祉（講義）	2
		保育原理（講義）	4		社会福祉（講義）	2
		養護原理（講義）	2		相談援助（演習）	1
		教育原理（講義）	2		社会的養護（講義）	2
	計14		保育者論（講義）	2		
	計13			計13		
必修科目	保育の対象の理解に関する科目	発達心理学（講義）	2	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ（講義）	2
		教育心理学（講義）	2		保育の心理学Ⅱ（演習）	1
		小児保健（講義・実習）	5		児童の保健Ⅰ（講義）	4
		小児栄養（演習）	2		児童の保健Ⅱ（演習）	1
		精神保健（講義）	2		児童の食と栄養（演習）	2
		家族援助論（講義）	2		家庭支援論（講義）	2
計15		計12		計12		
必修科目	保育の内容・方法の理解に関する科目	保育内容（演習）	6	保育の内容・方法に関する科目	保育課程論（講義）	2
		乳児保育（演習）	2		保育内容総論（演習）	1
		障害児保育（演習）	1		保育内容演習（演習）	5
		養護内容（演習）	1		乳児保育（演習）	2
					障がい児保育（演習）	2
					社会的養護内容（演習）	1
計10		保育相談支援（演習）	1			
	計14			計14		
基礎技能	基礎技能（演習）	4	保育の表現技術	保育表現技術（演習）	4	
保育実習	保育実習（実習）	5	保育実習	保育実習Ⅰ（実習）	4	
				保育実習指導Ⅰ（演習）	2	
総合演習	総合演習（演習）	2	総合演習	保育実践演習（演習）	2	
	必修科目 計		50	必修科目 計		51
選択必修科目	保育に関する科目（上記の系列より科目設定）		8以上	保育に関する科目（上記の系列より科目設定）		6以上
	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習）		2	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習）		2
				保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習）		1
	選択必修科目 計		10以上	選択必修科目 計		9以上
	合 計		68以上	合 計		68以上

教科目の教授内容の改正案

第5回保育士養成課程等検討会	資料2
平成22年2月26日	

【保育の本質・目的的理解に関する科目】 [現行]

<p><科目名> 保育原理 (講義・4単位)</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義について明確な認識をもたせ、その依拠する原因を理解させる。 2. 保育の場について、その歴史と類型について理解させる。 3. 保育所における保育の原理と特性、環境、方法について理解させる。 4. 発達過程に応じた保育について理解させる。 5. 保育所における保育の健康・安全について理解させる。 6. 保育所における多様な保育ニーズについて理解させる。 7. 保育所と家庭、地域との連携について理解させる。 8. 保育所における相談援助の基本原則と実践について理解させる。 9. 保育所における自己評価について理解させる。 			
<p><内容></p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の本質 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の意義とその思想 (2) 保育の目標 (3) 子どもの発達特性 (4) 保育の原理 2. 保育の場 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭 (2) 保育施設 (3) 家庭的保育 3. 保育の歴史と現状 4. 保育所保育の原理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の特性 (2) 保育の目標 (3) 保育の方法 (4) 保育の環境 5. 保育所保育の内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の内容構成の基本方針 (2) 養護に関わるねらい及び内容 (3) 教育に関わるねらい及び内容 6. 保育所保育の計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画作成上の基本的視点 (2) 保育課程と指導計画 (3) 保育の計画作成上の留意事項 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 7. 発達過程に応じた保育と指導計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 3歳未満児の保育と指導計画 (2) 3歳以上児の保育と指導計画 8. 保育所の健康・安全上の留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康上の留意事項 (2) 安全上の留意事項 9. 多様な保育ニーズへの対応上の留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 入所児童の多様な保育ニーズへの対応 (2) 地域における子育て支援 10. 子育てに関する相談援助活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子育て支援ニーズと相談援助活動 (2) 相談援助の基本原則 (3) 保育所における相談援助活動 (4) 地域における相談援助ネットワーク 11. 保育所における自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の自己評価 (2) 保育所の自己評価 (3) 職員の研修と資質の向上 12. 家庭、地域との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における連携の意味 (2) 家庭との連携 (3) 幼稚園・小学校との連携 13. 保育士の資質と任務 </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の本質 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の意義とその思想 (2) 保育の目標 (3) 子どもの発達特性 (4) 保育の原理 2. 保育の場 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭 (2) 保育施設 (3) 家庭的保育 3. 保育の歴史と現状 4. 保育所保育の原理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の特性 (2) 保育の目標 (3) 保育の方法 (4) 保育の環境 5. 保育所保育の内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の内容構成の基本方針 (2) 養護に関わるねらい及び内容 (3) 教育に関わるねらい及び内容 6. 保育所保育の計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画作成上の基本的視点 (2) 保育課程と指導計画 (3) 保育の計画作成上の留意事項 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 発達過程に応じた保育と指導計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 3歳未満児の保育と指導計画 (2) 3歳以上児の保育と指導計画 8. 保育所の健康・安全上の留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康上の留意事項 (2) 安全上の留意事項 9. 多様な保育ニーズへの対応上の留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 入所児童の多様な保育ニーズへの対応 (2) 地域における子育て支援 10. 子育てに関する相談援助活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子育て支援ニーズと相談援助活動 (2) 相談援助の基本原則 (3) 保育所における相談援助活動 (4) 地域における相談援助ネットワーク 11. 保育所における自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の自己評価 (2) 保育所の自己評価 (3) 職員の研修と資質の向上 12. 家庭、地域との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における連携の意味 (2) 家庭との連携 (3) 幼稚園・小学校との連携 13. 保育士の資質と任務
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の本質 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の意義とその思想 (2) 保育の目標 (3) 子どもの発達特性 (4) 保育の原理 2. 保育の場 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭 (2) 保育施設 (3) 家庭的保育 3. 保育の歴史と現状 4. 保育所保育の原理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の特性 (2) 保育の目標 (3) 保育の方法 (4) 保育の環境 5. 保育所保育の内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の内容構成の基本方針 (2) 養護に関わるねらい及び内容 (3) 教育に関わるねらい及び内容 6. 保育所保育の計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画作成上の基本的視点 (2) 保育課程と指導計画 (3) 保育の計画作成上の留意事項 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 発達過程に応じた保育と指導計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 3歳未満児の保育と指導計画 (2) 3歳以上児の保育と指導計画 8. 保育所の健康・安全上の留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康上の留意事項 (2) 安全上の留意事項 9. 多様な保育ニーズへの対応上の留意事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 入所児童の多様な保育ニーズへの対応 (2) 地域における子育て支援 10. 子育てに関する相談援助活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子育て支援ニーズと相談援助活動 (2) 相談援助の基本原則 (3) 保育所における相談援助活動 (4) 地域における相談援助ネットワーク 11. 保育所における自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の自己評価 (2) 保育所の自己評価 (3) 職員の研修と資質の向上 12. 家庭、地域との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育における連携の意味 (2) 家庭との連携 (3) 幼稚園・小学校との連携 13. 保育士の資質と任務 		

【保育の本質・目的的理解に関する科目】 [改定案]

<p><科目名> 保育原理 (講義・2単位) ※単位数減少</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義について理解する。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3. 保育の内容と方法の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について考察する。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の理念と概念 (2) 児童の最善の利益を考慮した保育 (3) 保護者との協働 (4) 保育の社会的意義 (5) 保育所保育と家庭的保育 (6) 保育所保育指針の制度的位置づけ 2. 保育所保育指針における保育の基本 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育の一体性 (2) 環境を通して行う保育 (3) 発達過程に応じた保育 (4) 保護者との緊密な連携 (5) 倫理観に裏付けられた保育士の専門性 3. 保育の目標と方法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う (2) 生活と遊びを通して総合的に行う保育 (3) 保育における個と集団への配慮 (4) 計画・実践・記録・評価の連動 4. 保育の思想と歴史的変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 諸外国の保育の思想と歴史 (2) 日本の保育の思想と歴史 5. 保育の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 諸外国の保育の現状と課題 (2) 日本の保育の現状と課題

【保育の本質・目的の理解に関する科目】

<科目名> 教育原理 (講義・2単位)
<目標>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義・目的及び児童福祉との関連性について理解させる。 2. 教育の基礎的概念、理論、歴史について学び、教育に関する体系的知識を習得させる。 3. 教育の制度と基本的な実践原理及び指導原理について理解させる。 4. 生涯学習社会における教育の在り方について考える。 5. 教育学的な思考や態度を習得させる。
<内容>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義、目的及び児童福祉との関連性 <ol style="list-style-type: none"> (1)教育の意義と目的 (2)教育と児童福祉の関連性 2. 教育の基礎的概念と諸理論 <ol style="list-style-type: none"> (1)諸外国の教育理論 (2)日本の教育理論 (3)幼児教育の理論 3. 教育の歴史 <ol style="list-style-type: none"> (1)諸外国の教育史 (2)日本の教育史 (3)子ども観と教育観の変遷 4. 教育の制度 <ol style="list-style-type: none"> (1)教育制度の基礎 (2)教育法規・教育行政の基礎 (3)諸外国の教育制度 5. 教育の実践 <ol style="list-style-type: none"> (1)教育の内容 (2)教育の方法 (3)教育指導の原理と形態 6. 生涯学習社会における教育 <ol style="list-style-type: none"> (1)生涯学習の基礎 (2)生涯学習社会における教育 7. 現代の教育問題

【保育の本質・目的に関する科目】

<科目名> 教育原理 (講義・2単位)
<目標>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践のさまざまな取り組みについて理解する 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
<内容>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性 <ol style="list-style-type: none"> (1)教育の意義 (2)教育の目的 (3)教育と児童福祉の関連性 (4)人間形成と家庭・地域・社会等との関連性 2. 教育の思想と歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1)諸外国の教育思想と歴史 (2)日本の教育思想と歴史 (3)児童観と教育観の変遷 3. 教育の制度 <ol style="list-style-type: none"> (1)教育制度の基礎 (2)教育法規・教育行政の基礎 (3)諸外国の教育制度 4. 教育の実践 <ol style="list-style-type: none"> (1)教育実践の基礎理論－内容、方法、計画と評価－ (2)教育実践の多様な取り組み 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1)生涯学習社会と教育 (2)現代の教育課題

【保育の本質・目的的理解に関する科目】

<p><科目名> 児童福祉（講義・2単位）</p>			
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉の意義及び歴史的展開過程について理解させる。 2. 児童福祉の法律、制度、福祉機関・施設を体系的に理解させる。 3. 児童福祉サービスの現状と課題を理解させる。 4. 児童福祉の専門職としての保育士の役割を理解させる。 5. 児童、家族に対する相談援助活動について理解させる。 			
<p><内容></p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉の意義とその歴史的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉の概念 (2) 児童福祉の理念 (3) 現代社会と児童 2. 児童福祉に関する制度と福祉機関・施設 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉に関する法律 (2) 児童福祉の制度 (3) 児童福祉の機関 (4) 児童福祉の施設 (5) 児童福祉の費用 3. 児童福祉の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子化と子育て支援サービス (2) 健全育成 (3) 母子保健 (4) 保育 (5) 養護と虐待の防止 (6) 障害児 (7) 少年非行・情緒障害 (8) ひとり親家庭 (9) 現代の児童福祉の課題と展望 (10) 諸外国の現状 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 4. 児童福祉の実践と児童福祉従事者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉の専門職 (2) 児童福祉の専門援助技術 (3) 児童福祉サービス関連機関との連携 5. 相談援助活動 </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉の意義とその歴史的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉の概念 (2) 児童福祉の理念 (3) 現代社会と児童 2. 児童福祉に関する制度と福祉機関・施設 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉に関する法律 (2) 児童福祉の制度 (3) 児童福祉の機関 (4) 児童福祉の施設 (5) 児童福祉の費用 3. 児童福祉の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子化と子育て支援サービス (2) 健全育成 (3) 母子保健 (4) 保育 (5) 養護と虐待の防止 (6) 障害児 (7) 少年非行・情緒障害 (8) ひとり親家庭 (9) 現代の児童福祉の課題と展望 (10) 諸外国の現状 	<ol style="list-style-type: none"> 4. 児童福祉の実践と児童福祉従事者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉の専門職 (2) 児童福祉の専門援助技術 (3) 児童福祉サービス関連機関との連携 5. 相談援助活動
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉の意義とその歴史的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉の概念 (2) 児童福祉の理念 (3) 現代社会と児童 2. 児童福祉に関する制度と福祉機関・施設 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉に関する法律 (2) 児童福祉の制度 (3) 児童福祉の機関 (4) 児童福祉の施設 (5) 児童福祉の費用 3. 児童福祉の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子化と子育て支援サービス (2) 健全育成 (3) 母子保健 (4) 保育 (5) 養護と虐待の防止 (6) 障害児 (7) 少年非行・情緒障害 (8) ひとり親家庭 (9) 現代の児童福祉の課題と展望 (10) 諸外国の現状 	<ol style="list-style-type: none"> 4. 児童福祉の実践と児童福祉従事者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉の専門職 (2) 児童福祉の専門援助技術 (3) 児童福祉サービス関連機関との連携 5. 相談援助活動 		

【保育の本質・目的に関する科目】

<p><科目名> 児童家庭福祉（講義・2単位）※科目名変更</p>	
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。 	
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童家庭福祉の理念と概念 (2) 児童家庭福祉の歴史的変遷 (3) 現代社会と児童家庭福祉 2. 児童家庭福祉と保育 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童家庭福祉の一分野としての保育 (2) 児童の人権擁護と児童家庭福祉 3. 児童家庭福祉の制度と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童家庭福祉の制度と法体系 (2) 児童家庭福祉行財政と実施機関 (3) 児童福祉施設等 (4) 児童家庭福祉の専門職・実施者 4. 児童家庭福祉の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子化と子育て支援サービス (2) 母子保健と児童の健全育成 (3) 多様な保育ニーズへの対応 (4) 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス (5) 社会的養護 (6) 障がいのある児童への対応 (7) 少年非行等への対応 5. 児童家庭福祉の動向と展望 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次世代育成支援と児童家庭福祉の推進 (2) 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク (3) 諸外国の動向 	

【保育の本質・目的に関する科目】

<科目名> 社会福祉 (講義・2単位)

<目標>

1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。
2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解させる。
3. 社会福祉サービス体系における公私の役割活動について理解させる。
4. 社会福祉援助技術及び福祉専門職の役割について理解させる。
5. 社会福祉の関連領域－医療福祉・地域福祉・ボランティア活動の概要を把握させる。
6. 現代における利用者保護制度(第三者評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等)を理解させる。

<内容>

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 現代社会と社会福祉の意義 | 5. 社会福祉の動向 |
| (1) 社会福祉の理念と概念 | (1) 少子高齢社会への対応 |
| (2) 社会福祉の対象と主体 | (2) 在宅福祉・地域福祉の推進 |
| (3) 社会福祉ニーズの変容 | (3) 社会福祉基礎構造改革の進展 |
| (4) 社会福祉の発展 | (4) ボランティア活動の推進 |
| 2. 社会福祉の法体系と実施体系 | (5) 諸外国の動向 |
| (1) 社会福祉法制の体系 | 6. 利用者保護制度の概要 |
| (2) 社会福祉のサービス実施体系 | (1) 第三者評価 |
| (3) 社会福祉サービスの評価と情報提供 | (2) 苦情解決 |
| (4) 社会福祉の財政と費用負担 | (3) 権利擁護 |
| (5) 社会福祉サービスにおける公私の役割 | (4) 情報提供 |
| (6) 社会保障及び関連制度の概要 | |
| 3. 社会福祉援助技術の概要 | |
| (1) 社会福祉援助技術の発展経緯 | |
| (2) 社会福祉援助技術の形態と方法 | |
| (3) 社会福祉援助活動の動向 | |
| 4. 社会福祉専門職 | |
| (1) 社会福祉従事者の概要 | |
| (2) 社会福祉従事者の専門性と倫理 | |
| (3) 保健・医療関係分野の専門職との連携 | |

【保育の本質・目的に関する科目】

<科目名> 社会福祉 (講義・2単位)

<目標>

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

<内容>

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷
 - (1) 社会福祉の理念と概念
 - (2) 社会福祉の歴史の変遷
2. 社会福祉と児童家庭福祉
 - (1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
 - (2) 児童の人権擁護と社会福祉
 - (3) 家庭支援と社会福祉
3. 社会福祉の制度と実施体系
 - (1) 社会福祉の制度と法体系
 - (2) 社会福祉行財政と実施機関
 - (3) 社会福祉施設等
 - (4) 社会福祉の専門職・実施者
 - (5) 社会保障及び関連制度の概要
4. 社会福祉における相談援助
 - (1) 相談援助の意義と原則
 - (2) 相談援助の方法と技術
5. 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
 - (1) 情報提供と第三者評価
 - (2) 利用者の権利擁護と苦情解決
6. 社会福祉の動向と課題
 - (1) 少子高齢化社会への対応
 - (2) 在宅福祉・地域福祉の推進
 - (3) 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
 - (4) 諸外国の動向

【保育の本質・目的の理解に関する科目】

<p><科目名> 社会福祉援助技術 (演習・2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と歴史を理解させる。 2. 社会福祉援助技術の方法及び内容について理解させる。 3. 人権の尊重、自立支援、秘密保持等の基本姿勢について理解させる。 4. 保育士の職務として活用する機会の多い個別及び集団援助技術を事例を用いた演習形態で学び、またコミュニティーワーク、ケアマネジメントについても理解させる。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育と社会福祉援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1)社会福祉援助技術の意味 (2)社会福祉援助技術の方法 (3)保育と社会福祉援助技術の関係 2. 社会福祉援助技術の発展過程 3. 個別援助技術(ケースワーク) <ol style="list-style-type: none"> (1)個別援助技術の意義と機能 (2)個別援助技術の構成要素 (3)個別援助技術の原則 (4)個別援助技術の展開過程 (5)面接、記録、評価 (6)保育場面と個別援助技術の実際 4. 集団援助技術(グループワーク) <ol style="list-style-type: none"> (1)集団援助技術の意義と機能 (2)集団援助技術の援助媒体 (3)集団援助技術の展開過程 (4)保育場面と集団援助技術の実際 5. 地域援助技術(コミュニティーワーク) <ol style="list-style-type: none"> (1)地域援助技術の意義と機能 (2)地域援助技術の基本的性格 (3)地域援助技術の具体的実践例 6. ケアマネジメント 7. 事例研究(演習) <ol style="list-style-type: none"> (1)保育所における児童・家族への援助 (2)保育所以外の児童福祉施設における児童・家族への援助 <p>※教授に当たっては、導入時期においては講義形式で授業を行うことは差し支えないが、全体としては演習的展開とすること。</p>

【保育の本質・目的に関する科目】

<p><科目名> 相談援助(演習・1単位) ※科目名変更、系列変更</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の概要について理解する。 2. 相談援助の方法と技術について理解する。 3. 相談援助の具体的展開について理解する。 4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の概要 <ol style="list-style-type: none"> (1)相談援助の理論 (2)相談援助の意義 (3)相談援助の機能 (4)相談援助とソーシャルワーク (5)保育とソーシャルワーク 2. 相談援助の方法と技術 <ol style="list-style-type: none"> (1)相談援助の対象 (2)相談援助の過程 (3)相談援助の技術・アプローチ 3. 相談援助の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1)計画・記録・評価 (2)関係機関との協働 (3)多様な専門職との連携 (4)社会資源の活用、調整、開発 4. 事例分析 <ol style="list-style-type: none"> (1)虐待の予防と対応等の事例分析 (2)障がいのある子どもとその保護者への支援等の事例分析 (3)ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析

【保育の本質・目的に関する科目】

<p><科目名> 養護原理 (講義・2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景などを理解させる。 2. 社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割について理解させる。 3. 児童福祉施設などにおける養護の実際を理解させる。 4. 児童福祉施設援助者としての保育士の役割や援助について理解させる。 5. 児童観や施設養護観を養う。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童養護の概念 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭や社会の役割 (2) 社会的養護を必要とする子どもたち (3) 児童養護の歴史 (4) 児童養護の体系 家庭、施設、里親 2. 施設における児童養護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設養護の特質 (2) 施設養護の基本原則 個別化、親子関係の尊重と調整、集団の活用 3. 施設養護の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日常生活及び自立に向けての援助 (2) 治療的・支援的援助(心の傷を癒したり、心を育むための、また障害を支えるための援助) (3) 親子関係・学校・地域などとの関係調整 4. 児童福祉施設の運営・管理と援助者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 援助(養護)の理念 (2) 児童福祉施設の運営・管理 (3) 児童福祉施設援助者としての資質 (4) 個別援助技術や集団援助技術などの専門援助技術 (5) スーパービジョンとチームワーク (6) 倫理の確立 5. 今後の課題

【保育の本質・目的に関する科目】

<p><科目名> 社会的養護 (講義・2単位) ※科目名変更</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会的養護の理念と概念 (2) 社会的養護の歴史の変遷 2. 社会的養護と児童家庭福祉 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 (2) 児童の権利擁護と社会的養護 3. 社会的養護の制度と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会的養護の制度と法体系 (2) 社会的養護の仕組みと実施体系 (3) 家庭的養護と施設養護 (4) 社会的養護の専門職・実施者 4. 施設養護の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設養護の基本原則 (2) 施設養護の実際－日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等－ (3) 施設養護とソーシャルワーク 5. 社会的養護の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設等の運営管理 (2) 倫理の確立 (3) 被措置児童等の虐待防止 (4) 社会的養護と地域福祉

【保育の本質・目的に関する科目】

<p><科目名> 保育者論（講義・2単位）※新設</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の協働について理解する。 5. 保育者の専門職的成長について理解する。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 役割 (2) 倫理 2. 保育士の制度的位置づけ <ol style="list-style-type: none"> (1) 資格 (2) 要件 (3) 責務 3. 保育士の専門性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育 (2) 保育士の資質・能力 (3) 知識・技術及び判断 (4) 保育の省察 (5) 保育課程による保育の展開と自己評価 4. 保育者の協働 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育と保護者支援にかかわる協働 (2) 専門職間及び専門機関との連携 (3) 保護者及び地域社会との協働 (4) 家庭的保育者等との連携 5. 保育者の専門職的成長 <ol style="list-style-type: none"> (1) 専門性の発達 (2) 生涯発達とキャリア形成

【保育の対象の理解に関する科目】

<p><科目名> 発達心理学（講義・2単位）</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育は子どもがよき大人に発達するように援助する営みである。その子どもの発達について理解させる。 2. 人間の受精・誕生から死までの発達を理解させる。 3. 発達期の特徴を理解させる。 4. 子どもの将来に影響を及ぼす保育士と子どもとの連鎖的関係を理解させる。
<p>5. 「保育所保育指針」の発達項目を理解させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学の方法と考え方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 何のために発達心理学を学ぶか (2) 一人一人の子どもの発達を正確にとらえる必要性を理解させる。 (3) 人間の発達を生涯発達の視点からとらえ、それぞれの「発達段階」を理解させる。 2. 初期経験の重要性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 知能・性格・感情の基本を形成する乳幼児期の経験について理解させる。 (2) 野生児の事例、動物実験の事例から発達の課題について理解させる。 3. 発達期の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 胎児期 (2) 新生児期 (3) 乳児期 (4) 幼児期 (5) 児童期 (6) 青年期 (7) 成人期から老人期 4. 乳幼児期における発達援助のあり方（保育所保育指針の発達項目） <p> { 保育原理2-(4)へ 保育実習I3-(2)へ 保育内容総論3-(1)(2)へ </p>

【保育の対象の理解に関する科目】

<p><科目名> 保育の心理学Ⅰ（講義・2単位）※新設</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。 2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。 3. 子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。 4. 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育と心理学 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達を理解することの意義 (2) 保育実践の評価と心理学 (3) 発達観、子ども観と保育観 2. 子どもの発達理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と環境 (2) 感情の発達と自我 (3) 身体的機能と運動機能の発達 (4) 知覚と認知の発達 (5) 言葉の発達と社会性 3. 人との相互的にかかわりと子どもの発達 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的信頼感の獲得 (2) 他者とのかかわり (3) 社会的相互作用 4. 生涯発達と初期経験の重要性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生涯発達と発達援助 (2) 胎児期及び新生児期の発達 (3) 乳幼児期の発達 (4) 学童期から青年期の発達 (5) 成人期、老年期の発達

【保育の対象の理解に関する科目】

<p><科目名> 教育心理学 (講義・2単位)</p>	
<p><目標></p> <p>1. 養護とともに保育を構成する要素としての教育の過程における心理学的法則や事実の理解及び、より効果的な保育を展開するために教育心理学の基本的事項について理解させる。</p> <p>2. 生涯発達の観点により幼児期から青年期までの保育と教育の関連を把握できるようにするとともに、子ども一人一人の発達に対応した教育的対応についての理解を深めさせる。</p> <p>3. 子育て支援の一環としての保育における教育的要素に関する相談に対応できる能力を養成する。</p>	
<p><内容></p> <p>1. 教育心理学とは何か</p> <p>(1)教育心理学とは何か</p> <p>(2)保育における教育心理学 → 保育心理学 I 1へ</p> <p>(3)教育心理学の方法</p> <p>2. 発達</p> <p>(1)生涯発達の発達観 → 保育心理学保育 I 4-(6)へ</p> <p>(2)発達段階と個人差</p> <p>(3)発達課題と個人差 → 障がい児保育へ</p> <p>3. 学習</p> <p>(1)学習の過程</p> <p>(2)学習の理論</p> <p>4. 知的能力と人格 } 保育心理学 I 1、2-(1)(4)(5)へ</p> <p>(1)知能と学力</p> <p>(2)知能の測定 → 保育心理学 I 2-(2)へ</p> <p>(3)知能と創造性</p> <p>5. 集団と個人</p> <p>(1)保育における集団と個人 } 保育原理3-(3)</p> <p>(2)集団の種類と構造</p> <p>(3)集団の役割とその指導</p>	

【保育の対象の理解に関する科目】

<p><科目名> 保育の心理学Ⅱ (演習・1単位) ※新設</p>	
<p><目標></p> <p>1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。</p> <p>2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。</p> <p>3. 保育における発達援助について学ぶ。</p>	
<p><内容></p> <p>1. 子どもの発達と保育実践</p> <p>(1)子ども理解における発達の把握</p> <p>(2)個人差や発達過程に応じた保育</p> <p>(3)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用</p> <p>(4)環境としての保育者と子どもの発達</p> <p>(5)子ども相互のかかわりと関係作り</p> <p>(6)自己主張と自己統制</p> <p>(7)子ども集団と保育の環境</p> <p>2. 生活や遊びを通じた学びの過程</p> <p>(1)子どもの生活と学び</p> <p>(2)子どもの遊びと学び</p> <p>(3)生涯にわたる生きる力の基礎を培う</p> <p>3. 保育における発達援助</p> <p>(1)基本的生活習慣の獲得と発達援助</p> <p>(2)自己の主体性の形成と発達援助</p> <p>(3)発達課題に応じたかかわりと援助</p> <p>(4)発達の連続性と就学への支援</p> <p>(5)発達援助における協働</p> <p>(6)現代社会における子どもの発達と保育の課題</p>	

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名> 小児保健 (講義・実習 5単位)

<目標>

1. 生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解させる。
2. 今日、発生している小児の心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法に有ることを認識し、それらの問題に適切に対処できるようにさせる。
3. 小児の健康状態を、個人生活と保育生活等の集団生活のレベルで理解させる。
4. 小児の疾病異常や事故の特徴とその予防について理解し、さらに緊急時の基礎的対応を可能にさせる。
5. 小児の健康が家庭や地域との密接な関係があることを認識し、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解させる。

1. 小児の健康と小児保健の意義と目的

- (1) 小児の健康の定義と健康に影響する要因
- (2) 小児の健康と保育との関係
- (3) 小児の健康と家庭・地域との関連
- (4) 小児の健康指標と小児保健水準

6. 事故と安全対策

- (1) 小児の事故の特徴
- (2) 事故と心身の被害と救急処置
- (3) 事故防止対策と安全教育
- (4) 事故や災害と精神保健

小児の保健
II-4

2. 小児の発育・発達と生活の支援

- (1) 身体発育の特徴とその評価
- (2) 精神運動機能発達の特徴とその評価
- (3) 生理機能と小児の生活
- (4) 発育・発達を促す保育の実践

7. 児童福祉施設における保健対策

- (1) 児童福祉施設における保健活動の基本的方針
- (2) 各種の児童福祉施設の特徴と健康管理の実際
- (3) 保健活動における連携

3. 小児の食生活と栄養

- (1) 小児の栄養の意義
- (2) 小児各時期の食生活の実際

小児の食と栄養

4. 心身の健康増進の意義とその実践

- (1) 小児各時期の健康づくりの意義
- (2) 小児各時期の健康づくりの実践

5. 小児の疾病とその予防対策

- (1) 小児期の健康状態の評価
- (2) 小児の疾病の特徴と小児期に多く見られる疾病
- (3) 心身の状態と保育現場で必要な応急処置
- (4) 予防接種
- (5) 養育上問題と心身の健康
- (6) 疾病異常と支援体制

小児の保健
II-3

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名> 児童の保健 I (講義・4単位) ※科目名変更

<目標>

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。
5. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
6. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

<内容>

1. 子どもの健康と保健の意義

- (1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
- (2) 健康の概念と健康指標
- (3) 地域における保健活動と児童虐待防止

2. 子どもの発育・発達と保健

- (1) 生物としてのヒトの成り立ち
- (2) 身体発育と保健
- (3) 生理機能の発達と保健
- (4) 運動機能の発達と保健
- (5) 精神機能の発達と保健

3. 子どもの疾病と保育

- (1) 子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴
- (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応

4. 子どもの精神保健

- (1) 子どもの生活環境と精神保健
- (2) 子どもの心の健康とその課題

5. 環境及び衛生管理並びに安全管理

- (1) 保育環境整備と保健
- (2) 保育現場における衛生管理
- (3) 保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理

6. 健康及び安全の実施体制

- (1) 職員間の連携と組織的取組
- (2) 母子保健対策と保育
- (3) 家庭・専門機関・地域との連携

【保育の対象の理解に関する科目】

<p><科目名> 精神保健 (講義・2単位)</p>	
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の精神発達の様相とそれを促す適切な保育のあり方を理解させる。 2. 虐待、いじめ等の心の健康障害の実態を認識し、保育における適切な対処のあり方について理解させる。 3. 単に精神医学的対応のみならず、小児各時期の健全育成を基盤とした保育の必要性を理解させる。 4. 小児の心の健康に関して家庭・地域・保育の連携の重要性を理解させる。 	
<p><内容></p>	
<p>1. 小児の精神機能発達と精神保健</p> <p>(1) 精神発達と脳神経系器官の成熟</p> <p>(2) 心の健康に影響する要因</p>	<p>児童の保健</p> <p>Iの2-(5)へ</p>
<p>2. 小児の生活環境と精神保健</p> <p>(1) 家族関係と小児期の精神保健</p> <p>(2) 文化・教育環境と小児期の精神保健</p> <p>(3) 社会環境と小児期の精神保健</p>	<p>児童の保健 I の4へ</p>
<p>3. 小児各時期の精神保健</p> <p>(1) 身体と精神保健の関係</p> <p>(2) 乳児期の精神保健</p> <p>(3) 幼児期の精神保健</p> <p>(4) 学齢期の精神保健</p> <p>(5) 思春期の精神保健</p>	<p>児童の保健 I の4へ</p>
<p>4. 小児の心の健康障害</p> <p>(1) 小児各時期の精神障害の特徴</p> <p>(2) 心の健康障害と小児の養育のあり方</p>	<p>児童家庭福祉4-(2)(3)(4)</p>
<p>5. 小児期の精神保健活動</p> <p>(1) 精神医学と保育の連携</p> <p>(2) 子育て支援対策と心の健康づくり</p> <p>(3) 児童福祉施設における心のケア</p> <p>(4) 地域精神保健活動と保育</p>	<p>障がい児保育</p> <p>家庭支援論3、4の関連</p>

【保育の対象の理解に関する科目】

<p><科目名> 児童の保健II (演習・1単位)</p>	
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。 2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。 3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。 4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。 	
<p><内容></p>	
<p>1. 保健活動の計画及び評価</p> <p>(1) 保健計画の作成と活用</p> <p>(2) 保健活動の記録と自己評価</p> <p>(3) 子どもの保健に係る個別対応と子ども集団全体の健康と安全・衛生管理</p>	
<p>2. 子どもの保健と環境</p> <p>(1) 保健における養護と教育の一体性</p> <p>(2) 子どもの健康増進と保育の環境</p> <p>(3) 子どもの生活習慣と心身の健康</p> <p>(4) 子どもの発達援助と保健活動</p>	
<p>3. 子どもの疾病と適切な対応</p> <p>(1) 体調不良や傷害が発生した場合の対応</p> <p>(2) 感染症の予防と対策</p> <p>(3) 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾患等)</p> <p>(4) 乳児への適切な対応</p> <p>(5) 障がいのある子どもへの適切な対応</p>	
<p>4. 事故防止及び健康安全管理</p> <p>(1) 事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組</p> <p>(2) 救急処置及び救急蘇生法の習得</p> <p>(3) 保育における看護と応急処置</p> <p>(4) 災害への備えと危機管理</p>	
<p>5. 心とからだの健康問題と地域保健活動</p> <p>(1) 子どもの養育環境と心の健康問題</p> <p>(2) 心とからだの健康づくりと地域保健活動</p>	

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名> 小児栄養 (演習・2単位)

<目標>

1. 小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解し小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解させる。
2. 保育者として、保育との関連のなかで、小児に適切な食事が提供できることの意義を理解させる。
3. 保育者として、保育における食生活が心の健康にも影響することを理解させる。
4. 食生活が、家族の健康や生活、地域との密接な関係があることを理解させる。
5. 食生活を通じて、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。

<内容>

1. 小児の健康な生活と食生活の意義

- (1) 小児の心身の健康や生活と食生活の関係
- (2) 家庭・地域における食生活の実態と小児の食生活

2. 小児の発育・発達と食生活

- (1) 身体発育・精神運動機能発達と栄養・食生活
- (2) 食べる機能・消化吸収機能発達と栄養・食生活

3. 栄養に関する基本的知識

- (1) 栄養素、栄養生理、代謝に関する基本的知識
- (2) 栄養所要量の意義とその活用
- (3) 小児の集団生活と献立作成・調理の基本
- (4) 栄養状態の評価

4. 妊娠・授乳期の食生活

- (1) 妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活
- (2) 母乳分泌と母乳分泌促進の食生活
- (3) 妊娠・分娩の異常と食生活
- (4) 胎児と食生活

5. 乳児期の食生活

- (1) 乳児期の心身の特徴と食生活の関係
- (2) 乳汁栄養(母乳栄養・人工栄養・混合栄養)
- (3) 離乳の意義とその実践
- (4) 乳児期の栄養上の問題と健康への対応

6. 幼児期の食生活

(1) 幼児期の心身の特徴と食生活の関係

(2) 幼児期の食生活の特徴とその実践

(3) 間食の意義とその実践

(4) 幼児期の栄養上の問題と健康への対応

7. 学齢期・思春期の食生活

- (1) 学齢期・思春期の心身の特徴と食生活
- (2) 学齢期・思春期の具体的な食生活
- (3) 学校給食と栄養教育

8. 小児期の疾病と食生活

- (1) 小児の疾病の特徴と食生活
- (2) 摂食障害と食生活のあり方
- (3) 症状別の食生活
- (4) 食事療法

(5) 不適切な食生活と健康障害

9. 障害をもつ小児の食生活

- (1) 障害の特徴と食生活
- (2) 障害児の食生活の実際

10. 児童福祉施設における食生活

- (1) 児童福祉施設の特徴と食生活の基本
- (2) 児童福祉施設の給食の基本的方針
- (3) 食事による健康障害とその予防
- (4) 栄養・食生活に関する教育や指導

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名> 児童の食と栄養 (演習・2単位) ※科目名変更

<目標>

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。
4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

<内容>

1. 子どもの健康と食生活の意義

- (1) 子どもの心身の健康と食生活
- (2) 子どもの食生活の現状と課題

2. 栄養に関する基本的知識

- (1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
- (2) 食事摂取基準と献立作成・調理の基本

3. 子どもの発育・発達と食生活

- (1) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
- (2) 幼児期の心身の発達と食生活
- (3) 学童期の心身の発達と食生活
- (4) 生涯発達と食生活

4. 食育の基本と内容

- (1) 食育における養護と教育の一体性
- (2) 食育の内容と計画及び評価
- (3) 食育のための環境
- (4) 地域の関係機関や職員間の連携
- (5) 食生活指導及び食を通した保護者への支援

5. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養

- (1) 家庭における食事と栄養
- (2) 児童福祉施設における食事と栄養

6. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養

- (1) 疾病及び体調不良の子どもへの対応
- (2) 食物アレルギーのある子どもへの対応
- (3) 障がいのある子どもへの対応

【保育の対象の理解に関する科目】

<p><科目名> 家族援助論 (講義・2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所のもつ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを理解させる。 2. 「子育て支援」は保育所だけでなく、その他の児童福祉施設の親についても同様に必要とされることを理解させる。 3. 現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活、とくにその人間関係(夫婦・親子・きょうだい)のあり方を理解すること及びそれをふまえて適切な「相談・助言」を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであることを理解させる。 4. 1～3を踏まえ、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について理解させる。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とは何か <ol style="list-style-type: none"> (1) 家族の意味(定義) (2) 家族の機能 2. 家族をとりまく社会的状況と支援体制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 都市化 (2) 核家族化・少子化 (3) 男女共同参画社会の進展 (4) 家族の福祉を図るための社会資源 3. 今日における家族生活(家族関係) <ol style="list-style-type: none"> (1) 夫婦関係(子どもから見た両親のあり方) (2) 親子関係 (3) きょうだい関係 4. 「子育て支援」としての家族対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「子育て」からみた家族の課題 (2) 子育て支援の意義 (3) 子育て支援サービスの範囲 (4) 「相談・助言」という「子育て支援」 (5) 虐待などへの対応 (6) 子育て支援サービスの課題 (7) 子育て支援サービスの具体的展開 (8) 子育て支援における関係機関との連携

【保育の対象の理解に関する科目】

<p><科目名> 家庭支援論 (講義・2単位) ※科目名変更</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義とその機能について理解する。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 3. 子育て家庭の支援体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭支援の意義と役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭の意義と機能 (2) 家庭支援の必要性 (3) 保育士等が行う家庭支援の原理 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 <ol style="list-style-type: none"> (1) 現代の家庭における人間関係 (2) 地域社会の変容と家庭支援 (3) 男女共同参画社会とワークライフバランス 3. 子育て家庭の支援体制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 (2) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子育て支援サービスの概要 (2) 保育所入所児童の家庭への支援 (3) 地域の子育て家庭への支援 (4) 要保護児童及びその家庭に対する支援 (5) 子育て支援における関係機関との連携 (6) 子育て支援サービスの課題

【保育の内容・方法に関する科目】

<科目名> 保育課程論 (講義・2単位) ※新設

<目標>

1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。

<内容>

1. 保育の計画と評価の基本
 - (1)カリキュラムの基礎理論
 - (2)保育所における保育の計画と評価の意義
 - (3)保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義
 - (4)計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上
2. 保育所における保育の計画
 - (1)保育所保育指針と幼稚園教育要領
 - (2)保育課程と指導計画
 - (3)保育課程の編成
 - (4)指導計画(長期的・短期的)の作成と作成上の留意事項
3. 保育の計画の作成と展開
 - (1)保育課程の編成と展開
 - (2)指導計画の実際の作成と展開
4. 保育所における保育の評価
 - (1)保育の省察と検討及び記録
 - (2)保育士及び保育所の自己評価
 - (3)保育の計画の再編成
 - (4)生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

<p><科目名> 保育内容 (演習・6単位)</p>	
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育内容」とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解させる。 2. 領域別(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の教科の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ばせる。 3. 保育士として、発達過程に即して子ども理解することと、総合的に指導・援助が行えるよう実践的な力を習得させる。 4. 「保育内容」は、5領域を視野に入れた教科(5領域に区分、5領域にとらわれず区分のいずれも可)と、それらの教科を統合する「保育内容総論」から構成されることが望ましい。 	
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と保育内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の基本と内容・方法を理解させる (2) 全体構造の中で保育内容をとらえる 2. 保育内容の歴史的変遷 3. 子どもの発達と保育内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達の捉え方と保育内容 (2) 保育所保育指針の発達観 (3) 保育所保育指針での保育内容の構成 <ul style="list-style-type: none"> ア 養護に関わるねらい及び内容 イ 教育に関わるねらい及び内容 ウ 養護と教育の一体性 4. 子どもの活動と保育環境・子どもの活動と援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの活動の捉え方と環境 (2) 保育の環境とは・環境構成とは (3) 保育者の援助とは (4) 遊びを通しての総合的指導とは 5. 保育の計画と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程の編成 (2) 指導計画の作成 (3) 保育の展開と自己評価 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 保育内容の課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育ニーズへの対応と保育内容 (2) 幼稚園・小学校との連携 (3) 保育内容を学び・研究する保育者

【保育の内容・方法に関する科目】

<p><科目名> 保育内容総論 (演習・1単位) ※保育内容を分割</p>	
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解する。 3. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。 4. 子どもの生活全体を通して、養護(生命の保持、情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。 5. 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。 	
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と保育内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解 (2) 保育の全体構造と保育内容 2. 保育内容の歴史的変遷 3. 保育内容と子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達の特性と保育内容 (2) 個と集団の発達と保育内容 (3) 保育における観察 (4) 保育における記録 4. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体的に展開する保育 (2) 環境を通して行う保育 (3) 遊びによる総合的な保育 (4) 生活や発達の連続性に考慮した保育 (5) 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育 5. 保育の多様な展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳児保育 (2) 長時間の保育 (3) 特別な支援を必要とする子どもの保育 (4) 多文化共生の保育 	

【保育の内容・方法に関する科目】

<科目名> 保育内容演習 (演習・5単位)

<目標>

1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。
2. 子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

<内容>

以下の観点から、総合的に保育内容を理解する。

1. 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助やかかわりである「養護」
 - ①子どもの生理的欲求を満たし、子どもが健康、安全、かつ快適に過ごすための生活援助
 - ②子どもを受容し、子どもが安心感と安定感をもって過ごすための援助やかかわり
2. 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育(健康、人間関係、環境、言葉及び表現の5領域)」
 - ①健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う「健康」の領域。
 - ②他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う「人間関係」の領域。
 - ③周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う「環境」の領域。
 - ④経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う「言葉」の領域。
 - ⑤感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする「表現」の領域。

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

<p><科目名> 乳児保育 (演習・2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚させる。 保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解させる。 広く乳児期(3歳未満児)の発達と保育について学びながら、そこにおける大人の役割について、事例をもとに具体的に理解させる。 乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を、討議しながら考え問題解決の方法を理解させる。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の意義 <ol style="list-style-type: none"> 乳児・乳児保育の概念 保育ニーズと乳児保育の考え方の基本 乳児保育の発展の経緯と現状 <ol style="list-style-type: none"> 乳児に対する保育観の変遷 乳児保育の一般化への過程 保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ 乳児の発達と保育 <ol style="list-style-type: none"> 0歳児の発達と保育(新生児期、0歳児前期、0歳児後期) 1歳児の発達と保育 2歳児の発達と保育 乳児の発達と保育(援助の基本的視点の獲得) 乳児の発達と保育 <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の計画(保育課程、指導計画) 保育形態と保育の環境構成 職員の協力体制 家庭・他機関・家庭的保育・地域との連携 保育の計画と記録・自己評価 <ol style="list-style-type: none"> 記録・自己評価 保育士の専門性 今後の課題

【保育の内容・方法に関する科目】

<p><科目名> 乳児保育 (演習・2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について学ぶ。 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の理念と役割 <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育の理念と歴史の変遷 乳児保育の役割と機能 乳児保育の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> 保育所における乳児保育 乳児院における乳児保育 家庭的保育等における乳児保育 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 3歳未満児の発達と保育内容 <ol style="list-style-type: none"> 乳児保育における基本的な知識・技術に基づくかわりと援助 6か月未満児の発達と保育内容 6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容 2歳児の発達と保育内容 乳児保育の実際 <ol style="list-style-type: none"> 保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価 個々の発達を促す生活と遊びの環境 職員間の協働 乳児保育における連携 <ol style="list-style-type: none"> 保護者とのパートナーシップ 保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

<科目名> 障害児保育 (演習・1単位)

<目標>

1. 一般の保育と障害児保育との連続性に気づかせ、一人ひとりの発達上の課題に対しての特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点からの障害理解を促す。
2. 障害児保育を支える理念に関して理解を深め、併せて、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状、及び今後の課題を理解させる。
3. 様々な障害についての理解を促し、個別的な保育上の留意点について学習させる。
4. 障害児保育場面における、日常生活動作、食事動作、排泄動作、更衣動作など具体的な保育方法について理解させる。
5. 相談機関などの種類と内容を理解すると共に、障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援の内容に関して理解を深めさせる。

<内容>

1. 障害児保育を支える理念
インテグレーション、メインストリーミング、ノーマライゼーション、インクルージョン
2. 障害児を取り巻く保育の現状
 - (1) 保育の現状と課題
 - (2) 専門機関とのよりよい連携
3. 様々な障害の理解と個別配慮
 - (1) 障害の種類とその特徴
 - (2) 保育現場での留意事項
4. 個に応じた保育支援
遊びや対人関係の援助、食事動作、排泄動作、更衣動作などの生活動作に関する具体的な保育技術
5. 家庭に対する支援
家庭との連携と協力

【保育の内容・方法に関する科目】

<科目名> 障がい児保育 (演習・2単位) ※科目名要検討

<目標>

1. 障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。
2. 様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。
3. 障がいのある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
4. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
5. 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。

<内容>

1. 障がい児保育を支える理念
 - (1) 「障がい」の概念と障がい児保育の歴史の変遷
 - (2) 障がい児保育の基本
2. 障がいの理解と保育における発達の援助
 - (1) 肢体不自由児、視覚・聴覚障がい児等の理解と援助
 - (2) 知的障がい児の理解と援助
 - (3) 発達障がい児の理解と援助①(ADHD—注意欠陥多動性障害、LD—学習障害等)
 - (4) 発達障がい児の理解と援助②(PDD—広汎性発達障害等)
3. 障がい児保育の実際
 - (1) 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価
 - (2) 個々の発達を促す生活や遊びの環境
 - (3) 子ども同士のかかわりと育ち合い
 - (4) 職員間の協働
4. 家庭及び関係機関との連携
 - (1) 保護者や家族に対する理解と支援
 - (2) 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
 - (3) 小学校等との連携
5. 障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題
 - (1) 保健・医療における現状と課題
 - (2) 福祉・教育における現状と課題
 - (3) 支援の場の広がりとながり

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

<p><科目名> 養護内容 (演習・1単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬的に居住型の児童福祉施設などを利用している児童の立場になったり生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、日常的に展開されている具体的な児童の生活や援助者の援助を理解させる。 2. 児童の心身の成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能を習得させる。 3. 児童観や施設養護観を養う。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設利用者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭環境により家庭で生活することができない子どもたち (2) 心身に障害があるために専門的なケアを必要とする子どもたち 2. 援助(養護)の内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的な日常生活の援助 (2) 心の傷を癒したり、心を育むための援助 (3) 親子関係を調整するための援助 (4) 学校や地域などとの関係を調整するための援助 (5) 自己実現・自立への援助 3. 援助(養護)の理念 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益 (2) 生存と発達の保障 (3) 権利擁護 4. 児童福祉施設援助者 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童福祉施設の援助者としての資質、倫理 (2) 個別援助技術や集団援助技術などの専門援助技術 6. 今後の課題

【保育の内容・方法に関する科目】

<p><科目名> 社会的養護内容 (演習・1単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。 2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。 3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。 4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。 5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童の権利擁護 (2) 保育士等の倫理及び責務 2. 社会的養護の実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設養護の特性及び実際 (2) 里親制度の特性及び実際 3. 支援の計画と内容及び事例分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別支援計画の作成 (2) 日常生活支援に関する事例分析 (3) 治療的支援に関する事例分析 (4) 自立支援に関する事例分析 (5) 記録及び自己評価 4. 社会的養護にかかわる専門的技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用 (2) ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 5. 今後の課題と展望 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の小規模化と地域とのかかわり (2) 社会的養護の課題と展望

【保育の内容・方法に関する科目】

<科目名> 保育相談支援(演習・1単位) ※科目名変更、系列変更

<目標>

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

<内容>

1. 保育相談支援の意義
 - (1) 保護者に対する保育相談支援の意義
 - (2) 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
2. 保育相談支援の基本
 - (1) 子どもの最善の利益と福祉の重視
 - (2) 子どもの成長の喜びの共有
 - (3) 保護者の養育力の向上に資する支援
 - (4) 信頼関係を基本とした受容的かわり、自己決定、秘密保持の尊重
 - (5) 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
3. 保育相談支援の実際
 - (1) 保育に関する保護者に対する指導
 - (2) 保護者支援の内容
 - (3) 保護者支援の方法と技術
 - (4) 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
4. 児童福祉施設における保育相談支援
 - (1) 保育所における保育相談支援の実際
 - (2) 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
 - (3) 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
 - (4) 障がい児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

【基礎技能】

<p><科目名> 基礎技能 (演習・4単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容を理解し展開するために必要な知識や技能を習得させる。 2. 音楽及び造形に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得させる。 3. 身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動技能を高める。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する教材を作成したり、それらに必要な知識や技能を習得させる。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽に関する基本的な知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 楽譜を読むために必要な基本的な知識 (2) 歌い、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識や技能 (3) 様々な音楽活動を通しての楽しさや喜びの経験 (4) 子どもの歌、簡易楽器、ピアノなど器楽による伴奏法など保育実践において必要な知識や技能 2. 造形に関する基本的な知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 造形活動を行う上で必要な材料や道具などに関する基本的な知識 (2) 描き造るために必要な絵画や工作、彫塑などに関する知識や技能 (3) 様々な造形活動を通しての楽しさや喜びの経験 (4) 造形玩具、遊具、ペーパーサート、影絵など保育実践において必要な知識や技能 3. 体育に関する基本的な知識や技能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体運動に関する基本的な知識と技能 (2) 保育実践において必要な知識や技能 (3) 運動遊びにおける安全管理

【保育表現技術】

<p><科目名> 保育表現技術 (演習・4単位) ※科目名変更、系列名変更</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 2. 身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体表現に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と運動機能や身体表現に関する知識と技術 (2) 見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等に見る子どもの経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と身体表現とを結びつける遊びの展開 2. 音楽表現に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開 3. 造形表現に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術 (2) 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開 4. 言語表現等に関する知識や技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術 (2) 子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境 (3) 子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等を結びつける遊びの展開 5. 教材等の活用及び作成と保育の展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と活用及び作成 (2) 子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成と保育の展開

【保育実習】

<p><科目名> 保育実習 (実習・5単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解させる。 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ばせる。
<p><内容></p> <p>【保育実習指導(1単位)】 (ねらい) 保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育実習の意義・目的・内容の理解 (2) 保育実習の方法の理解 (3) 実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。 (4) 実習課題の明確化 (5) 実習記録の意義・方法の理解 (6) 実習施設の理解 2. 実習中に巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へのスーパービジョンを行う。 3. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。 <p>【保育所における実習(2単位)】 (ねらい) 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設について理解させる 2. 保育の一日の流れを理解し、参加させる 3. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解させる

【保育実習】

<p><科目名> 保育実習Ⅰ (実習・4単位:保育所実習2単位・施設実習2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
<p><保育所実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへのかかわりと援助 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 <p><居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等における実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の生活と一日の流れ (2) 施設の役割と機能 2. 子ども理解

4. 保育課程・指導計画を理解させる
5. 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得させる
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解させる
7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解させる
8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ばせる
9. 保育士としての倫理を具体的に学ばせる
10. 安全及び疾病予防への配慮について理解させる

【居住型児童福祉施設等における実習(2単位)】

(ねらい)

居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。

(内 容)

1. 実習施設について理解させる
2. 養護の一日の流れを理解し、参加させる
3. 子どもの観察や関わりを通して、子どものニーズを理解させる
4. 援助計画を理解させる
5. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得させる
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解させる
7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解させる
8. 子どもの最善の利益についての配慮を学ばせる
9. 保育士としての職業倫理を理解させる
10. 安全及び疾病予防への配慮について理解させる

- (1) 子どもの観察とその記録
- (2) 個々の状態に応じたかかわりと援助
3. 養護内容・生活環境
 - (1) 計画に基づく活動や援助
 - (2) 子どもの心身の状態に応じた対応
 - (3) 子どもの活動と生活の環境
 - (4) 健康管理、安全対策の理解
4. 計画と記録
 - (1) 支援計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

【保育実習】

<科目名> 保育実習指導Ⅰ（演習・2単位）※保育実習より分化

<目標>

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<内容>

1. 保育実習の意義
 - (1) 実習の目的
 - (2) 実習の概要
2. 実習の内容と課題の明確化
 - (1) 実習の内容
 - (2) 実習の課題
3. 実習に際しての留意事項
 - (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
 - (2) プライバシーの保護と守秘義務
 - (3) 実習生としての心構え
4. 実習の計画と記録
 - (1) 実習における計画と実践
 - (2) 実習における観察、記録及び評価
5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

【総合演習】

<科目名> 総合演習 (演習・2単位)

<目標>

1. 保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させる。
2. 保育に関する現代的課題について、問題等の現状分析・検討を行わせる。
3. 問題解決のための対応、判断方法等について検討させる。
4. 必修科目(総合演習を除く。以下同じ。)及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認させる。

<内容>

「総合演習」は、次の①又は②のいずれかを実施するものとする。

- ① 保育にかかわる課題の中から一以上のものに関する分析、検討を行うと共に、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法について学修させるものとする。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程を理解し、解決内容について再検討する手法を取得させることをも目的とする。
- ② 総合演習を履修する者の必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする。

【参考例】

①について

(課題)

1. 少子化への対応
2. 虐待及びそれに伴う世代間連鎖について
3. 長時間保育と子どもの発達について
4. 少子高齢化と世代間交流

(教授方法)

1. テーマごとのディスカッション
2. 研究発表
3. 研究発表

②について

(必要な知識技能を修得したことを確認するための授業内容・方法)

1. イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論
2. 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についてのグループ討論。ロールプレイング
3. 社会性、対人関係能力、児童理解等についてのグループ討論
4. 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論
5. 資質能力の確認、まとめ

【保育実践演習】

<科目名> 保育実践演習 (演習・2単位)

<目標>

1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。
3. 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
4. 必修科目(保育実践演習を除く。以下同じ。)及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。

<内容>

「保育実践演習」は、次の①又は②のいずれかを行うものとする。

- ① 保育にかかわる課題の中から一以上のものに関する分析、考察、検討を行うとともに、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法等について学修する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。
- ② 必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認する。

【参考例】

①について

(課題)

1. 少子化への対応
2. 虐待及びそれに伴う世代間連鎖について
3. 長時間保育と子どもの発達について
4. 幼稚園・認定こども園・小学校との連携について

(方法)

1. テーマごとのディスカッション
2. 研究発表
3. 研究発表

②について

(必要な知識技能を修得したことを確認するための方法・内容)

1. イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論
2. 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についてのグループ討論。ロールプレイング
3. 社会性、対人関係能力、児童理解等についてのグループ討論
4. 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論
5. 資質能力の確認、まとめ

選択必修
【保育実習】

<p><科目名> 保育実習Ⅱ (実習・2単位)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の保育を実際に行い、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育全般に参加し、保育技術を習得させる。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得させる。特に発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。 3. 指導計画を立案し、実際に実践させる。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得させる。 5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ばせる。 6. 子どもの最善の利益への配慮を学ばせる。 7. 保育士としての職業倫理を理解させる 8. 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化させる。

選択必修
【保育実習】

<p><科目名> 保育実習Ⅱ (実習・2単位:保育所実習)</p>
<p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。
<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化

選択必修

【保育実習】

<科目名> 保育実習Ⅲ (実習・2単位)
<目標> 1. 児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
<内容> 1. 養護全般に参加し、養護技術を習得させる。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得させる。特に発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。 3. 援助計画を立案し、実際に実践させる。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得させる。 5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ばせる。 6. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ばせる。 7. 保育士としての倫理を具体的に学ばせる。 8. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化させる。

【保育実習】

<科目名> 保育実習Ⅲ (実習・2単位:保育所以外の施設実習)
<目標> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。
<内容> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2. 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化

【保育実習】

<科目名> 保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習・1単位）※新設

<目標>

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

<内容>

1. 保育実習による総合的な学び
 - (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
 - (2) 子どもの保育と保護者支援
2. 保育実践力の育成
 - (1) 子どもの状態に応じた適切なかわり
 - (2) 保育の表現技術を生かした保育実践
3. 計画と観察、記録、自己評価
 - (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
 - (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
4. 保育士の専門性と職業倫理
5. 事後指導における実習の総括と評価
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

<科目名> 選択必修 (8単位)

<科目名> 選択必修 (6単位) ※単位数減少

保育士試験出題範囲の改正案

第5回保育士養成課程等検討会	資料3
平成22年2月26日	

現行	改正後
<p>保育原理</p> <p>第1 出題の基本方針 保育所の保育を体系的に理解しているかを問うことを基本とする。 問題選択に当たっては、地域の子育て支援や多様な保育ニーズへの対応、保育サービスの評価、家庭、地域との連携など保育を巡る現代的課題に関しても配慮が必要である。</p> <p>第2 出題範囲</p> <p>1 保育の本質 (1) 保育の意義とその思想 (2) 保育の目標 (3) 子どもの発達特性 (4) 保育の原理</p> <p>2 保育の場 (1) 家庭 (2) 保育施設 (3) 家庭的保育</p> <p>3 保育の歴史と現状</p> <p>4 保育所保育の原理 (1) 保育の特性 (2) 保育の目標 (3) 保育の方法 (4) 保育の環境</p> <p>5 保育所保育の内容 (1) 保育の内容構成の基本方針 (2) 養護に関わるねらい及び内容 (3) 教育に関わるねらい及び内容</p> <p>6 保育所保育の計画 (1) 保育の計画作成上の基本的視点 (2) 保育課程と指導計画 (3) 保育の計画作成上の留意事項</p> <p>7 発達過程に応じた保育と指導計画 (1) 3歳未満児の保育と指導計画 (2) 3歳以上児の保育と指導計画</p>	<p>保育原理</p> <p>第1 出題の基本方針 保育の意義及び保育の内容や方法について体系的に理解しているかを問うことを基本とする。 問題選択に当たっては、保育所保育指針の内容や児童の保育と保護者支援を担う保育士の役割と責務について、また、保育相談支援や地域子育て支援等を含む保育の社会的意義など、保育を巡る現代的課題に関しても配慮が必要である。</p> <p>第2 出題範囲</p> <p>1 保育の意義 (1) 保育の理念と概念 (2) 児童の最善の利益を考慮した保育 (3) 保護者との協働 (4) 保育の社会的意義 (5) 保育所保育と家庭的保育 (6) 保育所保育指針の制度的位置づけ</p> <p>2 保育所保育指針における保育の基本 (1) 養護と教育の一体性 (2) 環境を通して行う保育 (3) 発達過程に応じた保育 (4) 保護者との緊密な連携 (5) 倫理観に裏付けられた保育士の専門性</p> <p>3 保育の目標と方法 (1) 現在を最もよく生き、望ましい未来をつくりだす力の基礎を培う (2) 生活と遊びを通して総合的に行う保育 (3) 保育における個と集団への配慮 (4) 計画・実践・記録・評価の連動</p> <p>4 保育の思想と歴史の変遷 (1) 諸外国の保育の思想と歴史 (2) 日本の保育の思想と歴史</p> <p>5 保育の現状と課題 (1) 諸外国の保育の現状と課題 (2) 日本の保育の現状と課題</p>

8 保育所の健康・安全上の留意事項

- (1) 健康上の留意事項
- (2) 安全上の留意事項

9 多様な保育ニーズへの対応上の留意事項

- (1) 入所児童の多様な保育ニーズへの対応
- (2) 地域における子育て支援

10 子育てに関する相談援助活動

- (1) 「家族」における現代的課題と支援
- (2) 子育て支援ニーズと相談援助活動
- (3) 相談援助の基本原則
- (4) 保育所における相談援助活動
- (5) 地域における相談援助ネットワーク

11 保育所における自己評価

- (1) 保育士の自己評価
- (2) 保育所の自己評価
- (3) 職員の研修と資質の向上

12 家庭、地域との連携

- (1) 保育における連携の意味
- (2) 家庭との連携
- (3) 幼稚園・小学校との連携

13 保育士の資質と任務

第3 出題上の留意事項

- 1 理論的側面の知識よりも、保育の実際との関連を重視した出題が望ましい。
- 2 社会福祉、児童福祉、精神保健、教育原理、養護原理の出題と十分関連をとって出題する。

教育原理

第1 出題の基本方針

教育に関する基礎的概念、教育活動における実践原理を体系的に理解しているかを問うことを基本とする。

第2 出題範囲

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉との関連性
 - (1) 教育の意義と目的
 - (2) 教育と児童福祉の関連性
- 2 教育の基礎的概念と諸理論
 - (1) 諸外国の教育理論
 - (2) 日本の教育理論
 - (3) 幼児教育の理論

第3 出題上の留意点

- 1 保育所保育指針の内容と保育の実際との関連を重視した出題が望ましい。
- 2 保育士の役割や倫理、専門性等について理解しているかという点についても出題し、その場合には具体的事例を設定して問う等工夫が必要である。
- 3 保育相談支援の内容等について理解しているかという点についても出題し、その場合には保育相談支援の意義と原則について具体的事例を設定して問う等工夫が必要である。
- 4 教育原理、児童家庭福祉、社会福祉、社会的養護の出題と十分関連をとって出題する。

教育原理

第1 出題の基本方針

教育に関する基本的概念、教育における実践原理を体系的に理解しているかを問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、教育の思想や制度について、また、児童福祉等との関連性や教育を巡る現代的課題に関しても配慮が必要である。

第2 出題範囲

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉等との関連性
 - (1) 教育の意義
 - (2) 教育の目的
 - (3) 教育と児童福祉の関連性
 - (4) 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性
- 2 教育の思想と歴史の変遷
 - (1) 諸外国の教育思想と歴史

- 3 教育の歴史
 - (1) 諸外国の教育史
 - (2) 日本の教育史
 - (3) 子ども観と教育観の変遷
- 4 教育の制度
 - (1) 教育制度の基礎
 - (2) 教育法規・教育行政の基礎
 - (3) 諸外国の教育制度
- 5 教育の実践
 - (1) 教育の内容
 - (2) 教育の方法
 - (3) 教育指導の原理と形態
- 6 生涯学習社会における教育
 - (1) 生涯学習の基礎
 - (2) 生涯学習社会における教育
- 7 現代の教育問題

第3 出題上の留意事項

- 1 単なる理論的側面の知識ではなく、保育の実際との関連についての出題が望ましい。
- 2 児童福祉、保育原理、養護原理の出題と十分関連をとって出題する。

児童福祉

第1 出題の基本方針

児童がおかれている現状とこれに対応して行われている現在の児童福祉制度及びその役割を体系的に理解しているかを問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、我が国の児童福祉の理念・制度の体系を概括的に理解しているかという点のほか、児童及びそれをとりまく環境の状況、児童福祉従事者の状況、児童福祉に係る相談援助活動の点についても留意する必要がある。

第2 出題範囲

- 1 児童福祉の意義とその歴史的展開
 - (1) 児童福祉の概念
 - (2) 児童福祉の理念
 - (3) 現代社会と児童
- 2 わが国の児童福祉に関する制度と福祉機関・施設
 - (1) 児童福祉に関する法律
 - (2) 児童福祉の制度
 - (3) 児童福祉の機関
 - (4) 児童福祉の施設
 - (5) 児童福祉の費用
- 3 児童福祉の現状と課題
 - (1) 少子化と子育て支援サービス

- (2) 日本の教育思想と歴史
- (3) 児童観と教育観の変遷
- 3 教育の制度
 - (1) 教育制度の基礎
 - (2) 教育法規・教育行政の基礎
 - (3) 諸外国の教育制度

4 教育の実践

- (1) 教育実践の基礎理論—内容、方法、計画と評価—
- (2) 教育実践の多様な取り組み

5 生涯学習社会における教育の現状と課題

- (1) 生涯学習社会と教育
- (2) 現代の教育課題

第3 出題上の留意事項

- 1 教育と保育の実際との関連を重視した出題が望ましい。
- 2 保育原理、児童家庭福祉、社会的養護の出題と十分関連をとって出題する。

児童家庭福祉 (名称変更)

第1 出題の基本方針

現代社会における児童家庭福祉の意義と役割について体系的に理解しているかを問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、児童家庭福祉の理念・制度の体系を概括的に理解しているかという点のほか、児童及び家庭をとりまく状況や児童家庭福祉の実際について、また、保育との関連性や児童家庭福祉を巡る現代的課題に関しても配慮が必要である。

第2 出題範囲

- 1 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷
 - (1) 児童家庭福祉の理念と概念
 - (2) 児童家庭福祉の歴史的変遷
 - (3) 現代社会と児童家庭福祉
- 2 児童家庭福祉と保育
 - (1) 児童家庭福祉の一分野としての保育
 - (2) 児童の人権擁護と児童家庭福祉
- 3 児童家庭福祉の制度と実施体系
 - (1) 児童家庭福祉の制度と法体系
 - (2) 児童家庭福祉行財政と実施機関
 - (3) 児童福祉施設等
 - (4) 児童家庭福祉の専門職・実施者

- (2) 健全育成
- (3) 母子保健
- (4) 保育
- (5) 養護と虐待の防止
- (6) 障害児
- (7) 少年非行・情緒障害
- (8) ひとり親家庭
- (9) 現代の児童福祉の課題と展望
- (10) 諸外国の現状

4 児童福祉の実践と児童福祉従事者

- (1) 児童福祉の専門職
- (2) 児童福祉の専門援助技術
- (3) 児童福祉サービス関連機関との連携

5 相談援助活動

第3 出題上の留意事項

- 1 児童福祉の意義とその歴史的展開の部分からは、歴史的にあまり古いものや現在の児童福祉制度と関連のないものは出題しない。
- 2 社会福祉、保育原理、教育原理の出題とは、十分関連をとって出題する。

社会福祉

第1 出題の基本方針

社会福祉全般に関して、その理念体系を理解しているかを問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、我が国の社会福祉の体系を概括的に理解しているかという点のほか、その背景となっている社会の動向、社会保障等の関連の深い制度の概要、制度の歴史的展開等の点についても留意する必要がある。

第2 出題範囲

- 1 現代社会と社会福祉の意義
 - (1) 社会福祉の理念と概念
 - (2) 社会福祉の対象と主体
 - (3) 社会福祉ニーズの変容
 - (4) 社会福祉の発展
- 2 社会福祉の法体系と実施体系
 - (1) 社会福祉法制の体系
 - (2) 社会福祉のサービス実施体系
 - (3) 社会福祉サービスの評価と情報提供
 - (4) 社会福祉の財政と費用負担
 - (5) 社会福祉サービスにおける公私の役割

4 児童家庭福祉の現状と課題

- (1) 少子化と子育て支援サービス
- (2) 母子保健と児童の健全育成
- (3) 多様な保育ニーズへの対応
- (4) 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス
- (5) 社会的養護
- (6) 障がいのある児童への対応
- (7) 少年非行等への対応

5 児童家庭福祉の動向と展望

- (1) 次世代育成支援と児童家庭福祉の推進
- (2) 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
- (3) 諸外国の動向

第3 出題上の留意事項

- 1 児童の人権擁護や児童家庭福祉に係る今日的課題等について理解しているかという点についても出題し、その場合には具体的事例を設定して問う等工夫が必要である。
- 2 児童家庭福祉の歴史的変遷の部分からは、歴史的にあまり古いものや現在の制度体系と関連のないものは出題しない。
- 3 保育原理、社会福祉、社会的養護の出題及び保育相談支援の内容と十分関連をとって出題する。

社会福祉

第1 出題の基本方針

社会福祉全般に関して、その理念体系を理解しているかを問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、社会福祉の理念・制度の体系を概括的に理解しているかという点のほか、その背景となっている社会の動向、社会保障等の関連制度の概要、利用者の保護にかかわる仕組みや相談援助等について、また、児童家庭福祉との関連性や社会福祉を巡る現代的課題に関しても配慮が必要である。

第2 出題範囲

- 1 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷
 - (1) 社会福祉の理念と概念
 - (2) 社会福祉の歴史的変遷
- 2 社会福祉と児童家庭福祉
 - (1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
 - (2) 児童の人権擁護と社会福祉
 - (3) 家庭支援と社会福祉
- 3 社会福祉の制度と実施体系
 - (1) 社会福祉の制度と法体系
 - (2) 社会福祉行財政と実施機関
 - (3) 社会福祉施設等

- (6) 社会保障及び関連制度の概要
- 3 社会福祉援助技術の概要
 - (1) 社会福祉援助技術の発展経緯
 - (2) 社会福祉援助技術の形態と方法
 - (3) 社会福祉援助活動の動向
- 4 社会福祉専門職
 - (1) 社会福祉従事者の概要
 - (2) 社会福祉従事者の専門性と倫理
 - (3) 保健・医療関係分野の専門職との連携
- 5 社会福祉の動向
 - (1) 少子高齢化社会への対応
 - (2) 在宅福祉・地域福祉の推進
 - (3) 社会福祉基礎構造改革の進展
 - (4) ボランティア活動の推進
 - (5) 諸外国の動向
- 6 利用者保護制度の概要
 - (1) 第三者評価
 - (2) 苦情解決
 - (3) 権利擁護
 - (4) 情報提供

第3 出題上の留意事項

- 1 社会福祉援助技術の内容等について理解しているかという点についても出題し、その場合には、具体的事例を設定して問う等工夫が必要である。
- 2 細かい法律や手続き、歴史的事項についての個々の知識に関して出題する場合は常に社会福祉の理念あるいは現在の社会福祉の全体系を理解する上で関係の深い必要なものに限ることとする。
- 3 児童福祉や保育原理の出題とは、十分関連をとって出題する。

養護原理

第1 出題の基本方針

保育所以外の児童福祉施設における児童処遇に関して、体系的に理解しているかを問うことを基本とする。

第2 出題範囲

- 1 児童養護の概念
 - (1) 家庭や社会の役割
 - (2) 社会的養護を必要とする子どもたち
 - (3) 児童養護の歴史
 - (4) 児童養護の体系

- (4) 社会福祉の専門職・実施者
- (5) 社会保障及び関連制度の概要
- 4 社会福祉における相談援助
 - (1) 相談援助の意義と原則
 - (2) 相談援助の方法と技術
- 5 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
 - (1) 情報提供と第三者評価
 - (2) 利用者の権利擁護と苦情解決
- 6 社会福祉の動向と課題
 - (1) 少子高齢化社会への対応
 - (2) 在宅福祉・地域福祉の推進
 - (3) 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク
 - (4) 諸外国の動向

第3 出題上の留意事項

- 1 社会福祉の法律や手続き、歴史的変遷の部分からは、歴史的にあまり古いものや現在の制度体系と関連のないものは出題しない。
- 2 社会福祉に係る相談援助の内容等について理解しているかという点についても出題し、その場合には相談援助の意義と原則について具体的事例を設定して問う等工夫が必要である。
- 3 保育原理、児童家庭福祉、社会的養護の出題と十分関連をとって出題する。

社会的養護

第1 出題の基本方針

現代社会における社会的養護の意義と役割について体系的に理解しているかを問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、社会的養護の理念・制度の体系を概括的に理解しているかという点のほか、児童及び社会的養護をとりまく状況や家庭の養護、施設養護の援助の実際について、また、保育との関連性や社会的養護を巡る現代的課題に関しても配慮が必要である。

第2 出題範囲

- 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷
 - (1) 社会的養護の理念と概念
 - (2) 社会的養護の歴史的変遷
- 2 社会的養護と児童家庭福祉
 - (1) 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護

- 家庭、施設、里親
- 2 施設における児童養護
 - (1) 施設養護の特質
 - (2) 施設養護の基本原則
個別化、親子関係の尊重と調整、集団の活用
 - 3 施設養護の実際
 - (1) 日常生活及び自立に向けての援助
 - (2) 治療的・支援的援助（心の傷を癒したり、心を育むための、また障害を支えるための援助）
 - (3) 親子関係・学校・地域などとの関係調整
 - 4 児童福祉施設の運営・管理と援助者
 - (1) 援助（養護）の理念
 - (2) 児童福祉施設の運営・管理
 - (3) 児童福祉施設援助者としての資質
 - (4) 個別援助技術や集団援助技術などの専門援助技術
 - (5) スーパービジョンとチームワーク
 - (6) 倫理の確立

5 今後の課題

第3 出題上の留意事項

- 1 単なる理論的側面の知識ではなく、児童福祉施設の実際との関連についての出題が望ましい。
- 2 児童福祉、保育原理、教育原理の出題と十分関連をとって出題する。

発達心理学

第1 出題の基本方針

発達の基本原則、胎児期から老人期までにおける発達期の特徴及び各々の発達段階における心理構造の特質、乳幼児期における発達援助のあり方、特に保育の実際との関係において十分に把握できているかを問うことを基本とする。

第2 出題範囲

- 1 発達心理学の方法と考え方
 - (1) 何のために発達心理学を学ぶか
 - (2) 一人一人の子どもを正確にとらえる必要性
 - (3) 人間の発達を「ライフサイクル」的な視点からとらえた「発達段階」
- 2 初期経験の重要性
 - (1) 知能・性格・感情の基本を形成する乳幼児期の経験
 - (2) 野生児の事例、動物実験の事例からみた発達の課題
- 3 発達期の特徴
 - (1) 胎児期
 - (2) 新生児期

- (2) 児童の権利擁護と社会的養護
- 3 社会的養護の制度と実施体系
 - (1) 社会的養護の制度と法体系
 - (2) 社会的養護の仕組みと実施体系
 - (3) 家庭的養護と施設養護
 - (4) 社会的養護の専門職・実施者
- 4 施設養護の実際
 - (1) 施設養護の基本原則
 - (2) 施設養護の実際—日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等—
 - (3) 施設養護とソーシャルワーク
- 5 社会的養護の現状と課題
 - (1) 施設等の運営管理
 - (2) 倫理の確立
 - (3) 被措置児童等の虐待防止
 - (4) 社会的養護と地域福祉

第3 出題上の留意事項

- 1 社会福祉の法律や手続き、歴史的変遷の部分からは、歴史的にあまり古いものや現在の制度体系と関連のないものは出題しない。
- 2 保育原理、児童家庭福祉、社会福祉の出題と十分関連をとって出題する。

保育の心理学（新設。旧「発達心理学」を保育との関連で発展・強化）

第1 出題の基本方針

保育実践にかかわる心理学の知識や発達の基本原則について体系的に理解しているかを問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、子どもの発達過程における心理や発達の特徴を理解しているかという点のほか、生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程について、また、保育における発達援助や子どもの発達を巡る現代的課題に関しても配慮が必要である。

第2 出題範囲

- 1 保育と心理学
 - (1) 子どもの発達を理解することの意義
 - (2) 保育実践の評価と心理学
 - (3) 発達観、子ども観と保育観
- 2 子どもの発達理解
 - (1) 子どもの発達と環境
 - (2) 感情の発達と自我
 - (3) 身体的機能と運動機能の発達
 - (4) 知覚と認知の発達
 - (5) 言葉の発達と社会性

- (3) 乳児期
- (4) 幼児期
- (5) 児童期
- (6) 青年期
- (7) 成人期から老人期

4 乳幼児期における発達援助のあり方（保育所保育指針の発達項目）

第3 出題上の留意事項

- 1 児童の発達の道筋を正しく理解し、家庭、所属集団等との関連において把握することを主眼として出題する。
- 2 児童の言動や問題行動についての理解等児童の保育等の実際において役立つような知識についても問わなければならない。
この場合、児童の問題行動の実態から出発して、その原因の理解方法、問題の解決方法及びその理論的背景等の理解についての出題を中心におくことが望ましい。
- 3 精神保健や保育原理の出題と十分関連をとって出題する。

精神保健

第1 出題の基本方針

発達段階及びその特質を基本的に理解した上で、それから外れた行動を示す児童について、正しい理解と取扱いができるかどうか、また、保育等の実際と関連して精神保健の意義及び目的を理解しているかどうかを問うことを基本とする。

第2 出題範囲

- 1 小児の精神機能発達と精神保健
 - (1) 精神発達と脳神経系器官の成熟
 - (2) 心の健康に影響する要因
- 2 小児の生活環境と精神保健
 - (1) 家族関係と小児期の精神保健
 - (2) 文化・教育環境と小児期の精神保健
 - (3) 社会環境と小児期の精神保健
- 3 小児各時期の精神保健
 - (1) 身体と精神保健の関係
 - (2) 乳児期の精神保健
 - (3) 幼児期の精神保健
 - (4) 学齢期の精神保健
 - (5) 思春期の精神保健
- 4 小児の心の健康障害
 - (1) 小児各時期の精神障害の特徴
 - (2) 心の健康障害と小児の養育のあり方
- 5 小児期の精神保健活動
 - (1) 精神医学と保育の連携
 - (2) 子育て支援対策と心の健康づくり
 - (3) 児童福祉施設における心のケア
 - (4) 地域精神保健活動と保育

3 人との相互的にかかわりと子どもの発達

- (1) 基本的信頼感の獲得
 - (2) 他者とのかかわり
 - (3) 社会的相互作用
- #### 4 生涯発達と初期経験の重要性
- (1) 生涯発達と発達援助
 - (2) 胎児期及び新生児期の発達
 - (3) 乳幼児期の発達
 - (4) 学童期から青年期の発達
 - (5) 成人期、老年期の発達

5 子どもの発達と保育実践

- (1) 子ども理解における発達の把握
- (2) 個人差や発達過程に応じた保育
- (3) 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
- (4) 環境としての保育者と子どもの発達
- (5) 子ども相互のかかわりと関係作り
- (6) 自己主張と自己統制
- (7) 子ども集団と保育の環境

6 生活や遊びを通した学びの過程

- (1) 子どもの生活と学び
- (2) 子どもの遊びと学び
- (3) 生涯にわたる生きる力の基礎を培う

7 保育における発達援助

- (1) 基本的な生活習慣の獲得と発達援助
- (2) 自己の主体性の形成と発達援助
- (3) 発達課題に応じたかかわりと援助
- (4) 発達の連続性と就学への支援
- (5) 発達援助における協働
- (6) 現代社会における子どもの発達と保育の課題

第3 出題上の留意事項

- 1 児童の発達過程及び発達の特性について正しく理解し、保育（養護と教育）との関連において把握することを主眼として出題する。
- 2 児童の発達課題や初期経験の重要性等、保育の実際において役立つような知識についても問わなければならない。
- 3 保育原理、児童家庭福祉、児童の保健の出題と十分関連をとって出題する。

第3 出題上の留意事項

- 1 保育の中で遭遇する、児童の発達の遅れや行動の異常についての理解を深めるような出題とし、理論面に過度に重点が置かれることなく保育等の実際における応用力を重視した出題とする。
- 2 問題作成に当たっては、障害児保育との関連も考慮に入れることとする。
- 3 発達心理学や保育原理の出題と十分関連をとって出題する。

小児保健

第1 出題の基本方針

個々の小児と集団を形成した場合の小児各時期の健康についての理解と健康増進や疾病異常に対する対応への理解を問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、身体面のみならず心の健康についての理解や各種の保健対策、安全対策等についても留意する必要がある。

第2 出題範囲

- 1 小児の健康と小児保健の意義と目的
 - (1) 小児の健康の定義と健康に影響する要因
 - (2) 小児の健康と保育との関係
 - (3) 小児の健康と家庭・地域の関連
 - (4) 小児の健康指標と小児保健水準
- 2 小児の発育・発達と生活の支援
 - (1) 身体発育の特徴とその評価
 - (2) 精神運動機能発達の特徴とその評価
 - (3) 生理機能と小児の生活
 - (4) 発育・発達を促す保育の実際
- 3 小児の食生活と栄養
 - (1) 小児の栄養の意義
 - (2) 小児各時期の食生活の実際
- 4 心身の健康増進の意義とその実践
 - (1) 小児各時期の健康づくりの意義
 - (2) 小児各時期の健康づくりの実践
- 5 小児の疾病とその予防対策
 - (1) 小児期の健康状態の評価
 - (2) 小児の疾病の特徴と小児期に多く見られる疾病
 - (3) 心身の状態と保育現場に必要な応急処置
 - (4) 予防接種
 - (5) 養育上問題と心身の健康
 - (6) 疾病異常と支援体制
- 6 事故と安全対策
 - (1) 小児の事故の特徴
 - (2) 事故と心身の被害と救急処置

児童の保健（←小児保健より科目名変更・精神保健を統合）

第1 出題の基本方針

児童の心身の健康と安全に係る基本的知識と保育実践に係る児童の疾病とその予防及び事故防止と安全管理等についての理解を問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、児童の健康増進を図る保健活動の意義や保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解しているかという点のほか、児童の身体面のみならず心の健康についての理解や母子保健対策、他職種との連携等に関しても配慮が必要である。

第2 出題範囲

- 1 子どもの健康と保健の意義
 - (1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
 - (2) 健康の概念と健康指標
 - (3) 地域における保健活動と児童虐待防止
- 2 子どもの発育・発達と保健
 - (1) 生物としてのヒトの成り立ち
 - (2) 身体発育と保健
 - (3) 生理機能の発達と保健
 - (4) 運動機能の発達と保健
 - (5) 精神機能の発達と保健
- 3 子どもの疾病と保育
 - (1) 子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴
 - (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応
- 4 子どもの精神保健
 - (1) 子どもの生活環境と精神保健
 - (2) 子どもの心の健康とその課題
- 5 環境及び衛生管理並びに安全管理
 - (1) 保育環境整備と保健
 - (2) 保育現場における衛生管理
 - (3) 保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
- 6 健康及び安全の実施体制
 - (1) 職員間の連携と組織的取組
 - (2) 母子保健対策と保育
 - (3) 家庭・専門機関・地域との連携
- 7 保健活動の計画及び評価
 - (1) 保健計画の作成と活用

(3) 事故防止対策と安全教育

(4) 事故や災害と精神保健

7 児童福祉施設における保健対策

(1) 児童福祉施設における保健活動の基本的方針

(2) 各種の児童福祉施設の特徴と健康管理の実際

(3) 保健活動における連携

8 母子保健対策と保育

(1) 地域母子保健の意義

(2) 母子保健サービスの実際

(3) 母子保健サービスと保育との連携

第3 出題上の留意事項

1 保育等の実際においてしばしば出会うと思われる事項に関して出題することが望ましい。

2 精神保健の出題と十分関連をとって出題する。

小児栄養

第1 出題の基本方針

小児栄養の基本的理論を体系的に理解しているか、特に保育の実際との関連において実践的な知識・理解となっているかを問うことを基本とする。

第2 出題範囲

1 小児の健康な生活と食生活の意義

(1) 小児の心身の健康や生活と食生活の関係

(2) 家庭・地域における食生活の実態と小児の食生活

2 小児の発育・発達と食生活

(1) 身体発育・精神運動機能発達と栄養・食生活

(2) 食べる機能・消化吸収機能発達と栄養・食生活

3 栄養に関する基本的知識

(1) 栄養素、栄養生理、代謝に関する基本的知識

(2) 栄養所要量の意義とその活用

(3) 小児の集団生活と献立作成・調理の基本

(4) 栄養状態の評価

4 妊娠・授乳期の食生活

(1) 妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活

(2) 母乳分泌と母乳分泌促進の食生活

(3) 妊娠・分娩の異常と食生活

(4) 胎児と食生活

(2) 保健活動の記録と自己評価

(3) 子どもの保健に係る個別対応と子ども集団全体の健康と安全・衛生管理

第3 出題上の留意事項

1 児童の疾病や事故等の予防や適切な対応について、保育の実際において起こりうる事項に関して出題することが望ましい。

2 一人一人の児童の保健とともに、集団の場における保健的対応や対策についても問わなければならない。

3 保育の心理学、児童の食と栄養の出題と十分関連をとって出題する。

児童の食と栄養 (←小児栄養)

第1 出題の基本方針

児童の食生活や栄養に関する基本的知識と保育実践に係る食育の基本と内容についての理解を問うことを基本とする。

問題選択に当たっては、児童の健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養の基本的概念や調理の基本、年齢や発達過程における食生活について理解しているかという点のほか、食に係る特別な配慮を有する児童への対応や食を通じた保護者への支援、現代社会における食生活の課題に関しても配慮が必要である。

第2 出題範囲

1 子どもの健康と食生活の意義

(1) 子どもの心身の健康と食生活

(2) 子どもの食生活の現状と課題

2 栄養に関する基本的知識

(1) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能

(2) 食事摂取基準と献立作成・調理の基本

3 子どもの発育・発達と食生活

(1) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活

(2) 幼児期の心身の発達と食生活

(3) 学童期の心身の発達と食生活

(4) 生涯発達と食生活

4 食育の基本と内容

(1) 食育における養護と教育の一体性

(2) 食育の内容と計画及び評価

(3) 食育のための環境

(4) 地域の関係機関や職員間の連携

5 乳児期の食生活

- (1) 乳児期の心身の特徴と食生活の関係
- (2) 乳汁栄養（母乳栄養・人工栄養・混合栄養）
- (3) 離乳の意義とその実践
- (4) 乳児期の栄養上の問題と健康への対応

6 幼児期の食生活

- (1) 幼児期の心身の特徴と食生活の関係
- (2) 幼児期の食生活の特徴とその実践
- (3) 間食の意義とその実践
- (4) 幼児期の栄養上の問題と健康への対応

7 学齢期・思春期の食生活

- (1) 学齢期・思春期の心身の特徴と食生活
- (2) 学齢期・思春期の具体的な食生活
- (3) 学校給食と栄養教育

8 小児期の疾病と食生活

- (1) 小児の疾病の特徴と食生活
- (2) 摂食障害と食生活のあり方
- (3) 症状別の食生活
- (4) 食餌療法
- (5) 不適切な食生活と健康障害

9 障害をもつ小児の食生活

- (1) 障害の特徴と食生活
- (2) 障害児の食生活の実践

10 児童福祉施設における食生活

- (1) 児童福祉施設の特徴と食生活の基本
- (2) 児童福祉施設の給食の基本的方針
- (3) 食事による健康障害とその予防
- (4) 栄養・食生活に関する教育や指導

第3 出題上の留意事項

- 1 日常生活に密接な関係があり、かつ栄養上重要な基本的な問題を出題する。
- 2 出題範囲内から平均して出題し、部分的な偏りをさける。

保育実習（保育実習理論及び保育実習実技）

第1 出題の基本方針

保育等に関する教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を問うことを基本とする。

保育実習理論については、保育原理と比べて具体性のある出題とし、保育実習実技については、児童福祉の場における実践的能力を問う内容にするよう配慮が必要である。

第2 出題範囲

A 保育実習理論

(5) 食生活指導及び食を通じた保護者への支援

5 家庭や児童福祉施設における食事と栄養

- (1) 家庭における食事と栄養
- (2) 児童福祉施設における食事と栄養

6 特別な配慮を要する子どもの食と栄養

- (1) 疾病及び体調不良の子どもへの対応
- (2) 食物アレルギーのある子どもへの対応
- (3) 障がいのある子どもへの対応

第3 出題上の留意事項

- 1 児童の食と栄養に関する適切な対応について、保育の実践において必要な事項に関して出題することが望ましい。
- 2 児童の保健の出題と十分関連をとって出題する。

保育実習（保育実習理論及び保育実習実技）

第1 出題の基本方針

保育に関する教科全体の知識・技術を基礎とし、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解し、実践する応用力を問うことを基本とする。

保育実習理論については、保育所、児童福祉施設の役割や機能について、また、保育士の職業倫理について具体的に理解しているかという点のほか、保育実践に係る計画（保育課程・指導計画）と実践（保育内容）及びその評価や児童福祉施設における児童の生活と援助活動に関しても配慮が必要である。

第2 出題範囲

A 保育実習理論

- 1 保育所保育
 - (1) 保育の計画
 - (2) 保育形態
 - (3) デイリープログラム
 - (4) 保育の内容
 - ①養護に関わる保育の内容
 - ア 生命の保持 イ 情緒の安定
 - ②教育に関わる保育の内容
 - ア 健康 イ 人間関係 ウ 環境 エ 言葉 オ 表現
- 2 入所施設の処遇
 - (1) 乳児院の養育
 - (2) 児童養護施設の養護
 - (3) 肢体不自由児施設、知的障害児施設等の療育
 - (4) その他の児童福祉施設の処遇
- B 保育実習実技
 - 1 音楽
 - (1) 器楽
 - 楽器 ピアノ、オルガン又は都道府県で指定する楽器
 - 課題曲 都道府県において指定する曲
 - (2) 声楽
 - 童謡など都道府県で指定するもの
 - 2 絵画制作
 - (1) 自由な題材のデッサン
 - (2) 特定課題に対する自由材料による制作
 - (3) 自由課題に対する特定材料による制作
 - (4) 特定課題に対する特定材料による制作
 - 3 言語
 - (1) 童話の語り（童話は選択させる）
 - (2) 絵本、スライド、紙芝居等を使った語り
 - (3) 受験者相互又は試験官との言葉あそび
 - 4 一般保育
 - (1) 保育現場のロールプレイ
 - (2) 提示された複数のカードや絵を使ったお話づくり
 - (3) 保育技術の自由実践

第3 出題上の留意事項

- 1 態度、知識、能力が総合的に把握されやすい内容を選定する。
- 2 児童の保育の実際において具体的に必要度の高い内容を重視し、また、いたずらに高度のものを選択させない。
- 3 保育実習実技において、児童を参加させるものについては、児童に特別の刺激を与える方法はさける等児童に悪影響のないように留意する。
- 4 保育実習実技の受験者が多い場合、多人数が同一条件のもとに受験できるよう配慮する。

- 1 保育所保育
 - (1) 保育所の役割と機能
 - (2) 保育課程と指導計画
 - (3) 保育の内容
 - ①養護にかかわる保育の内容
 - ②教育にかかわる保育の内容
 - (4) 記録と自己評価
 - (5) 保育士の役割と職業倫理
- 2 児童福祉施設（保育所以外）
 - (1) 施設の役割と機能
 - (2) 児童の生活の実際
 - (3) 支援計画の作成と実践
 - (4) 記録と自己評価
 - (5) 保育士の役割と職業倫理
- B 保育実習実技
 - 1 音楽表現に関する技術
 - 課題に対する器楽・声楽等
 - 2 造形表現に関する技術
 - 課題に対する絵画・制作等
 - 3 言語表現に関する技術
 - 課題に対する言葉に関する遊びや表現等

第3 出題上の留意事項

- 1 保育に関する知識、技術や受講者の思考力や創意工夫が総合的に把握されやすい内容を選択する。
- 2 児童の保育の実際において、必要度及び活用度の高い内容を重視する。
- 3 児童の遊びを豊かに展開するための技術とその応用力についても考慮する。
- 4 保育実習実技の受講者が多い場合、多人数が同一条件のもとに受験できるよう配慮する。

開講時間数についての試算

■ 趣旨

保育士養成課程改正案では現行の総修得単位数68単位を維持しているが、授業形態（講義、演習、実習）の設定により、開講時間数の変更が見込まれる。以下は、変更の程度の目安として試算するものである。

■ 前提

- ◇ 指定保育士養成施設は必ずしも学校教育法に規定された学校（大学等）ではないが、多くの養成施設は学校であるので、時間数の換算において大学設置基準を参照する。

【大学設置基準】

（単位）

第21条

各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

- 2 前項の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
 - 一 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - 二 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - 三 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - 3 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- ◇ 前項から、単位時間の設定は学校の裁量により幅を持つことになるが、ここでは、比較的多く取られている設定であると思われる、1単位を講義15時間、演習及び実技30時間、実習45時間として計算する。なお、下表では、講義2単位15コマ、演習1単位15コマとして計算する。
(ただし、大学における Semester 制の広がりにより、演習2単位を1 Semester=15コマで実施するケースが増えている可能性がある。)
 - ◇ 選択必修科目については、現行=講義4単位及び演習4単位、改正案=講義2単位及

び演習 4 単位ずつ履修するという仮定で計算する。

◇ 教養科目については、「体育（講義）」1 単位及び「体育（実技）」1 単位がそれぞれ、事実上 15 コマずつを費やしているケースが比較的好く見られるためそのように換算し、その他 6 単位は講義 3 科目として計算する。

◇ 実習については、学外実習以外の授業時間について計算し、「(5 単位) 1 単位 15 コマ」などと示す。現行の「小児保健」のうち実習 1 単位は便宜的に演習に組み入れて 15 コマとして計算する。

■ 試算

表

選択・必修	授業形態	現 行	改正案
必修	講義	24 単位 180 コマ	22 単位 165 コマ
	演習	21 単位 315 コマ	23 単位 345 コマ
	実習	(5 単位) 1 単位 15 コマ	(6 単位) 2 単位 30 コマ
選択必修	講義	4 単位 30 コマ	2 単位 15 コマ
	演習	4 単位 60 コマ	4 単位 60 コマ
	実習	(2 単位) 0 単位 0 コマ	(3 単位) 演習 1 単位 15 コマ
教養	—	8 単位 75 コマ	8 単位 75 コマ
合計		68 単位 675 コマ	68 単位 705 コマ
時間割上の授業の数 (学外実習以外)		45	47

※設置を要する単位数…合計 79 単位以上

保育実習以外の選択必修科目…17 単位以上

保育実習の選択必修…2 単位以上

教養科目…10 単位以上

■ 結論

◇ 上述の仮定に基づく試算では、学生が履修する時間割上の授業の数は課程全体で 2 つ増加する。

(設置を要する単位数を削減すれば、養成施設が時間割を設定する上で大きな異同はない。)

以上

【参考】「保育士養成課程の改正案」第4回検討会（2010.2.9）

	現行			改定案		
	系 列	教 科 目	履修単位数	系 列	教 科 目	履修単位数
教養科目		体育（講義） 体育（実技） その他	1 1 6		体育（講義） 体育（実技） その他	1 1 6
	教養科目 計		8以上	教養科目 計		8以上
必修科目	保育の本質・目的の理解に関する科目	社会福祉（講義）	2	保育の本質・目的に関する科目	保育原理（講義）	2
		社会福祉援助技術（演習）	2		教育原理（講義）	2
		児童福祉（講義）	2		児童家庭福祉（講義）	2
		保育原理（講義）	4		社会福祉（講義）	2
		養護原理（講義）	2		社会的養護（講義）	2
		教育原理（講義）	2		保育者論（講義）	2
	計	14	計	12		
保育の対象の理解に関する科目	発達心理学（講義）	2	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ（講義）	2	
	教育心理学（講義）	2		保育の心理学Ⅱ（演習）	1	
	小児保健（講義・実習）	5		児童の保健Ⅰ（講義）	4	
	小児栄養（演習）	2		児童の保健Ⅱ（演習）	1	
	精神保健（講義）	2		児童の食と栄養（演習）	2	
	家族援助論（講義）	2		家庭支援論（講義）	2	
計	15	計	12			
保育の内容・方法の理解に関する科目	保育内容（演習）	6	保育の内容・方法に関する科目	保育課程論（講義）	2	
	乳児保育（演習）	2		保育内容総論（演習）	1	
	障害児保育（演習）	1		保育内容演習（演習）	5	
	養護内容（演習）	1		乳児保育（演習）	2	
				障がい児保育（演習）	2	
				社会的養護内容（演習）	1	
計	10	計	15			
基礎技能	基礎技能（演習）	4	保育の表現技術	保育表現技術（演習）	4	
保育実習	保育実習（実習）	5	保育実習	保育実習Ⅰ（実習） 保育実習指導Ⅰ（演習）	4 2	
総合演習	総合演習（演習）	2	総合演習	保育実践演習（演習）	2	
必修科目 計		50	必修科目 計		51	
選択必修科目	保育に関する科目 （上記の系列より科目設定）		8以上	保育に関する科目 （上記の系列より科目設定）		6以上
	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習）		2	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習） 保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習）		2 1
	選択必修科目 計		10以上	選択必修科目 計		9以上
合 計		68以上	合 計		68以上	

第5回保育士養成課程等検討会	資料5 (大嶋委員提出資料)
平成22年2月26日	

保育士養成課程等検討会資料

【4年制養成課程等】

平成22年2月26日

共立女子大学

大嶋恭二

平成18・19・20年度
厚生労働科学研究費補助金
政策科学総合研究事業

最終報告

平成21年3月31日

社団法人全国保育士養成協議会
常務理事

大嶋 恭二 共立女子大学

I 平成18・19年度研究より

—2年間の調査の示すもの—

1. 児童福祉施設等への質問紙調査の概要



・ 「保育実習」「保育実習Ⅱ・Ⅲ」の
対象となる施設

・ (主として児童福祉施設・障害者施設)



・ 平成18年9月1～25日

・ (回答は9月1日時点)



・ 38.9% (1182票/3042施設)



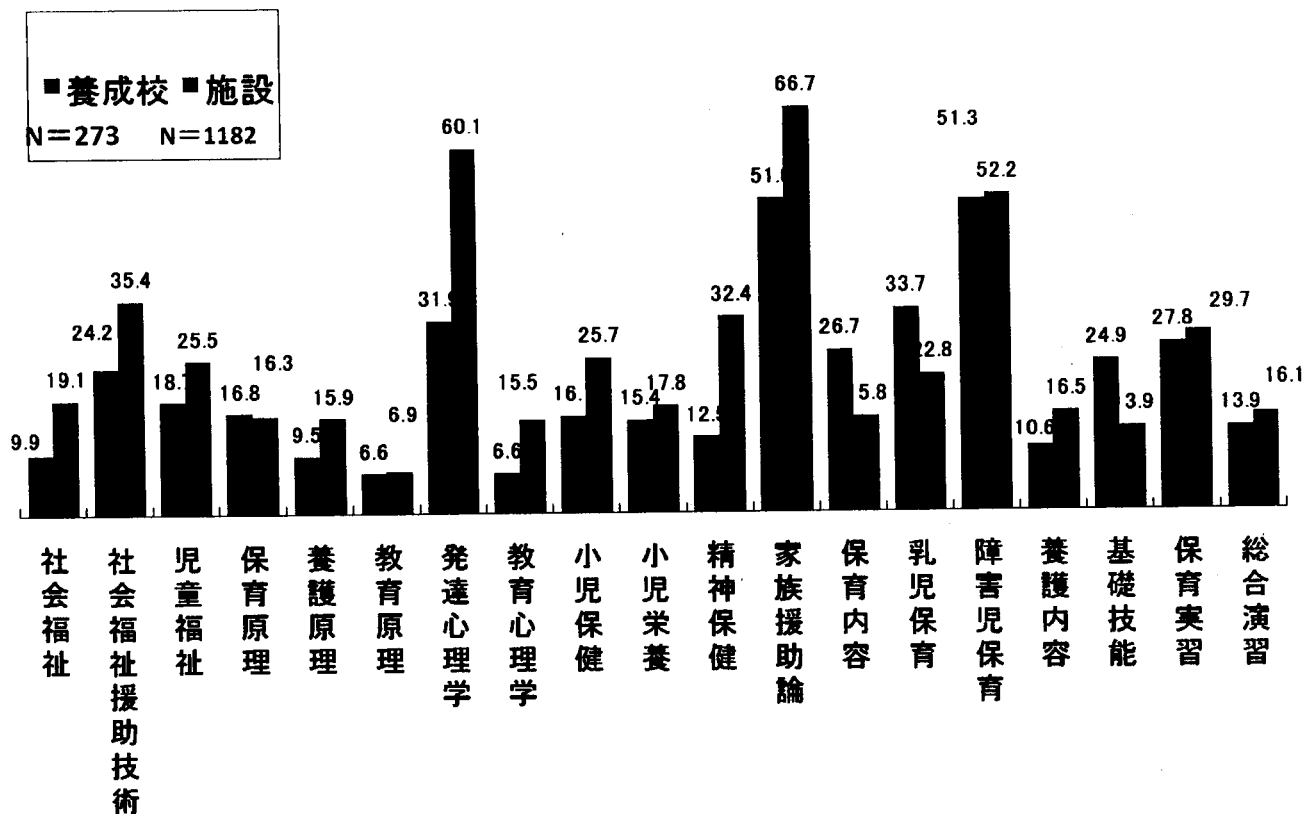
・ 質問紙郵送法

5

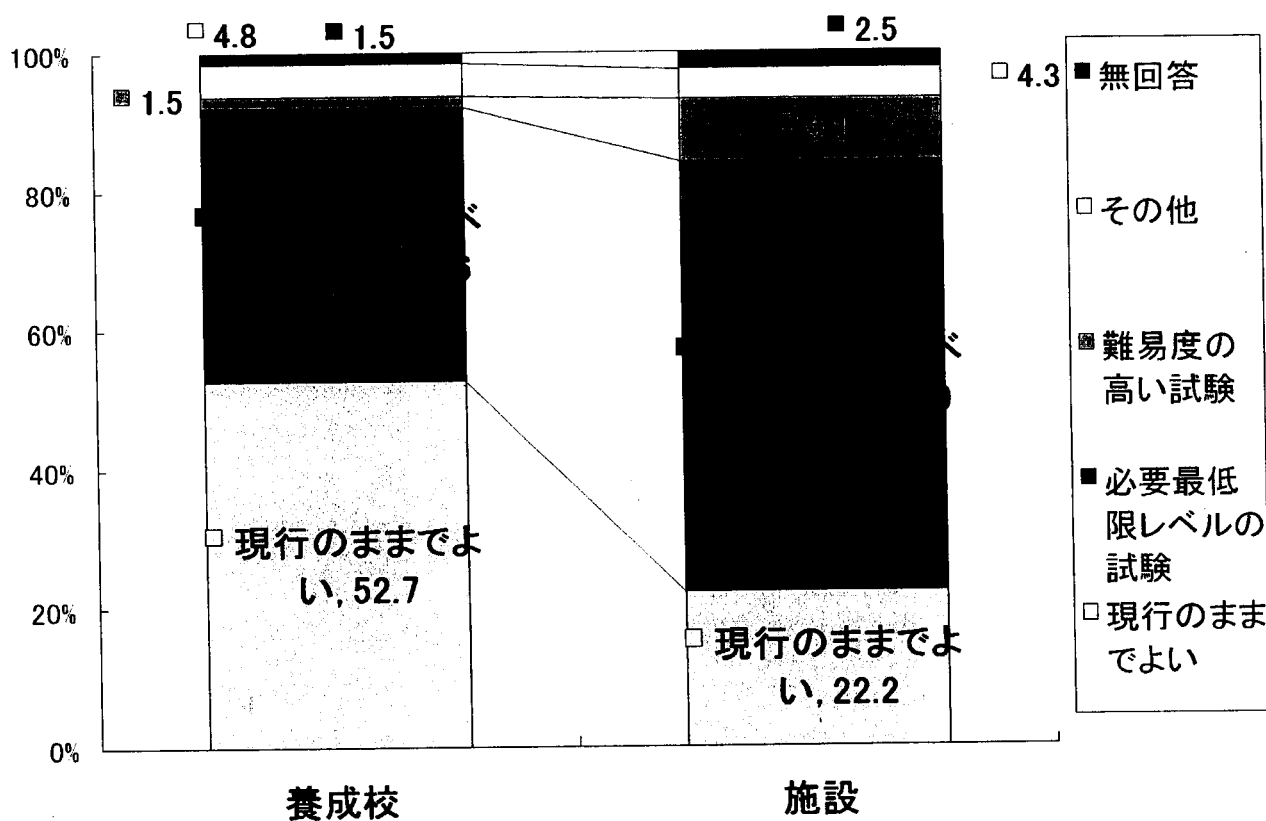
2. 調査結果の概要

(1) 今後必要な科目等

1. さらに充実が必要と思われる科目(養成校/施設) * 複数回答



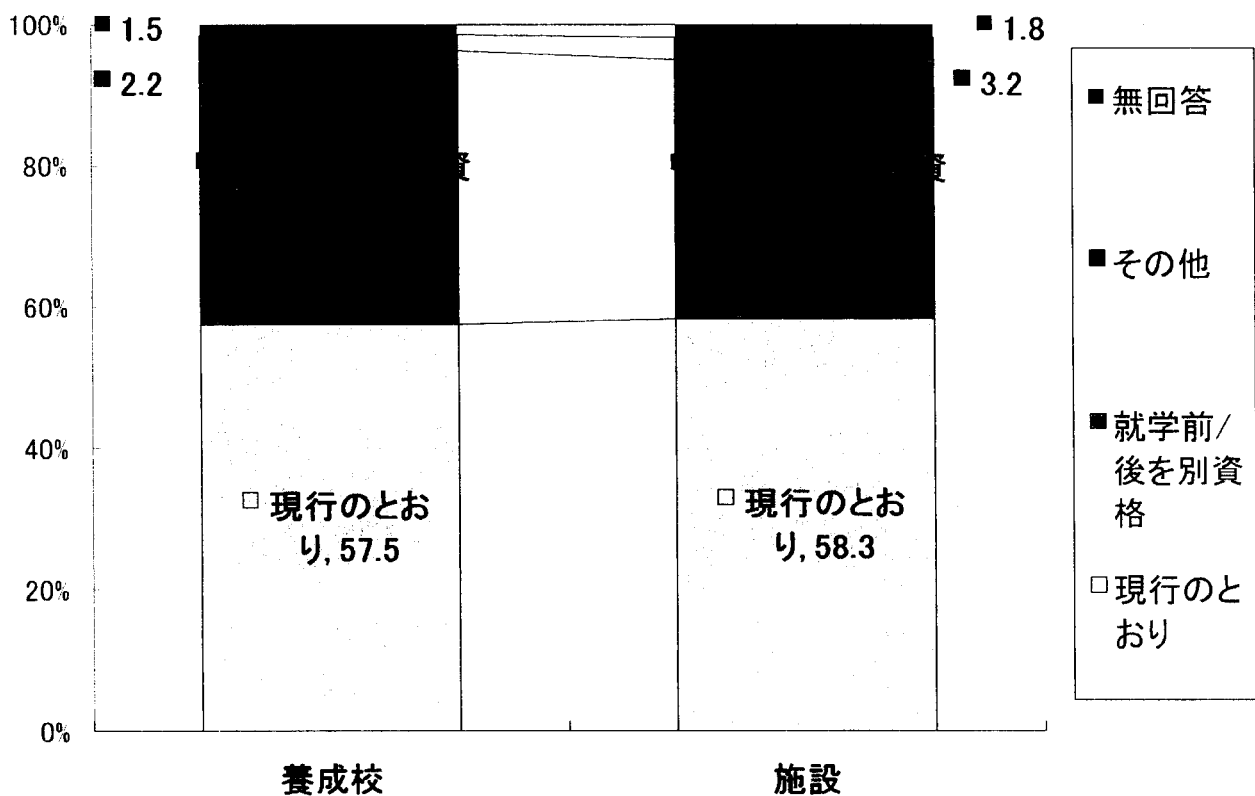
1. 国家試験を課すことについて(養成校/施設)



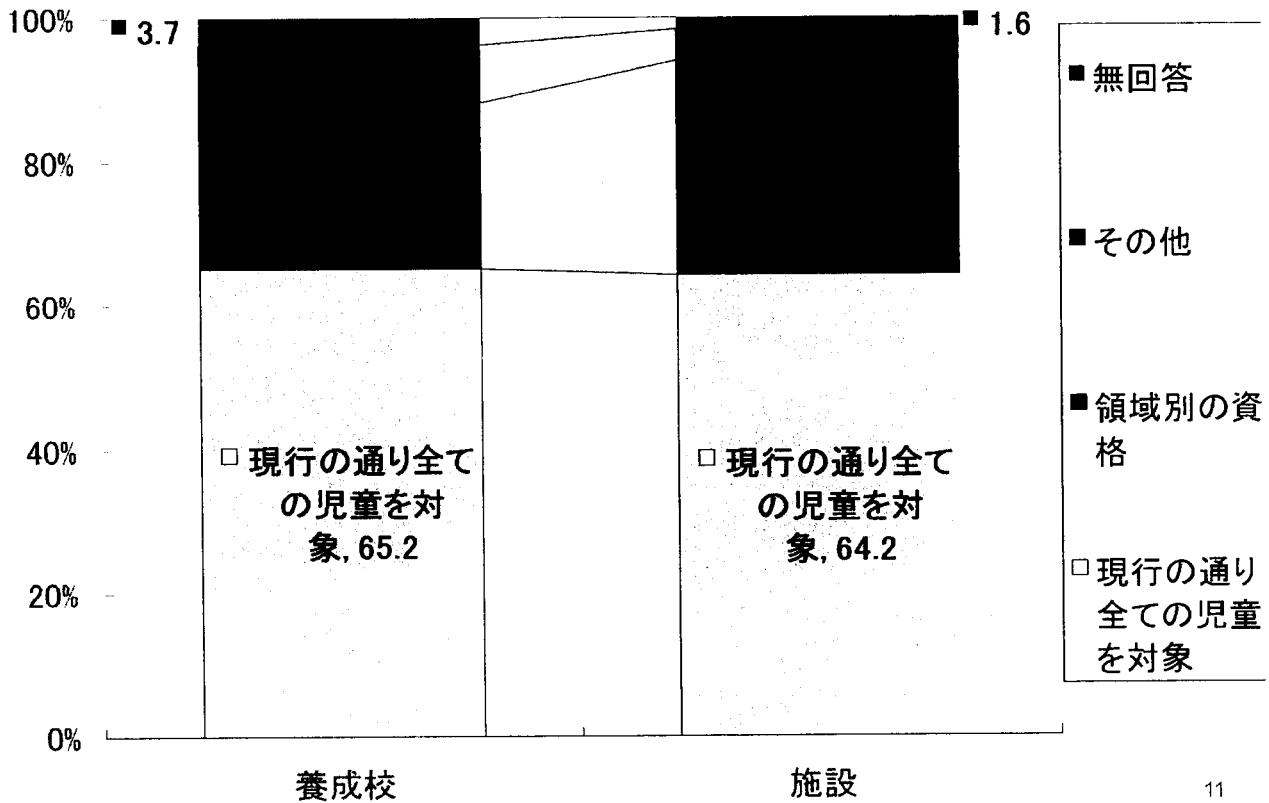
(2) 保育士資格の性格

- ① 対象とする年齢
- ② 対象とする領域

① 保育士が対象とする年齢について(養成校/施設)



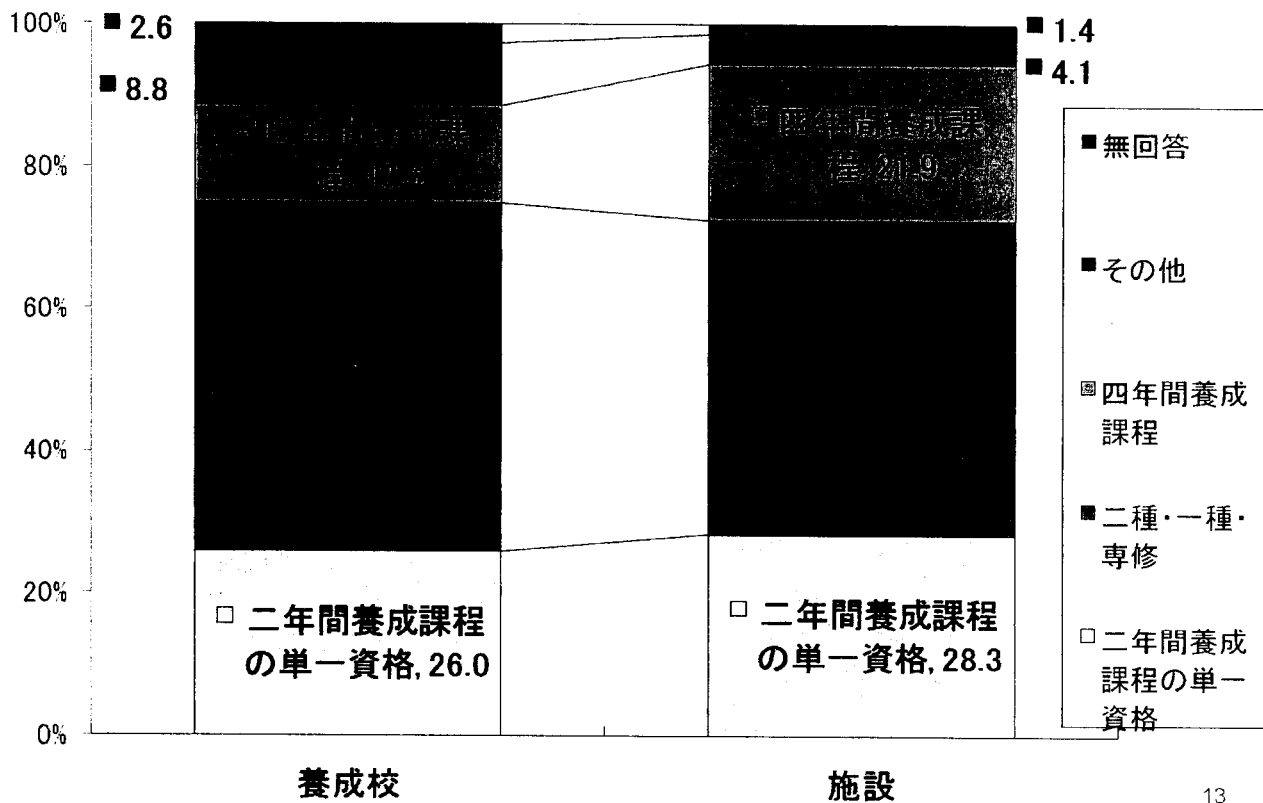
②保育士が対象とする領域について (養成校/施設)



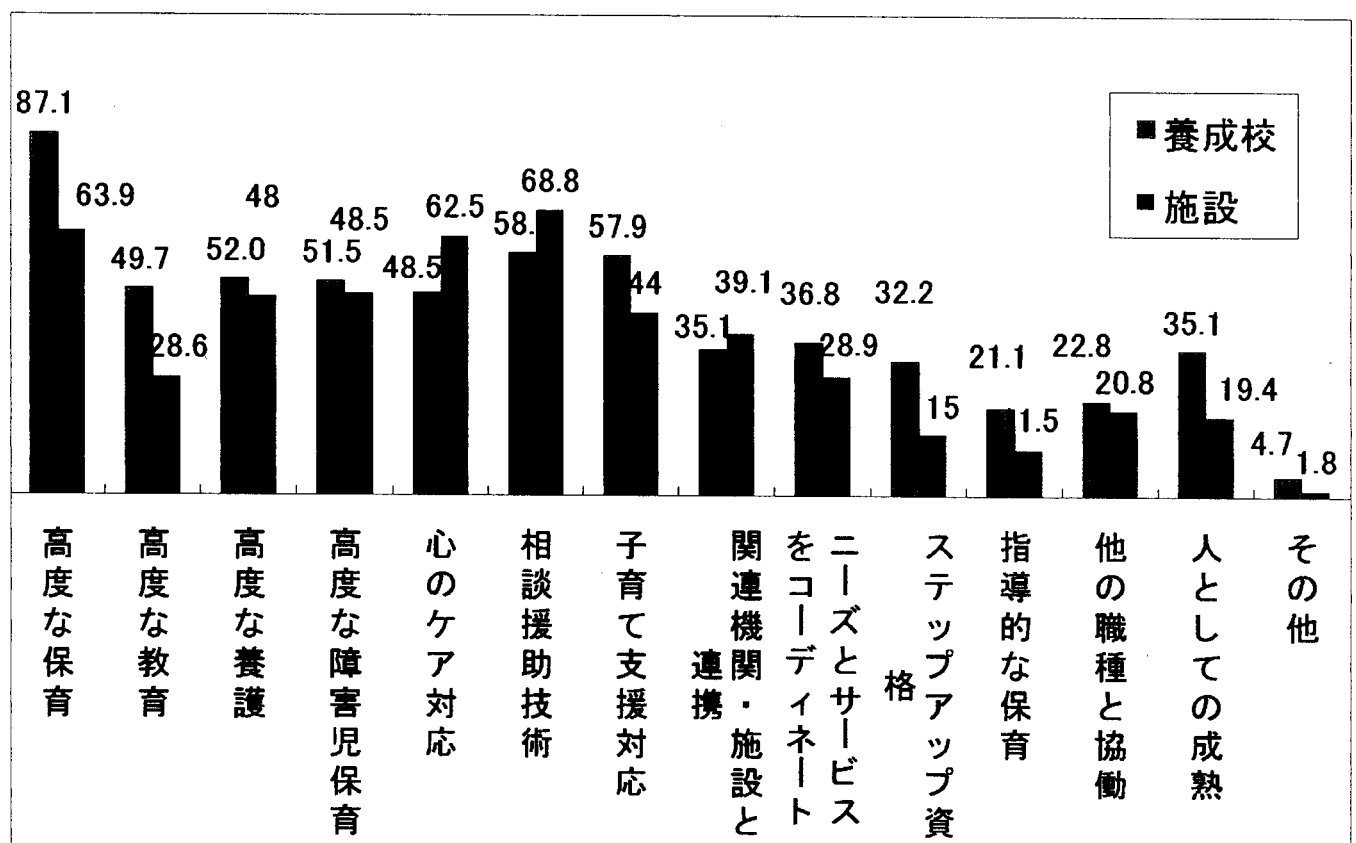
(3) 保育士養成年限等

- ① 保育士養成年限
- ② 四年間養成課程が必要な理由
- ③ 四年間養成課程資格へのステップアップ
- ④ 大学院での保育士養成

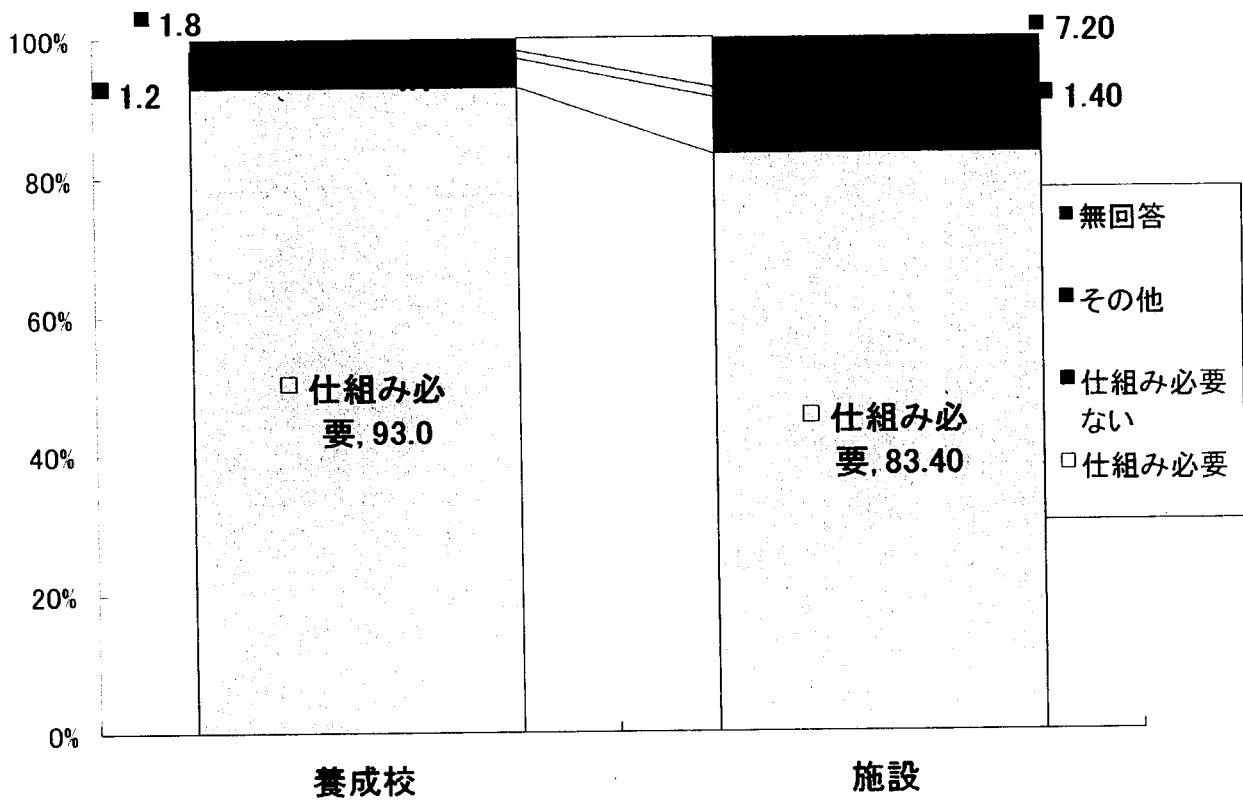
① 保育士養成年限について(養成校/施設)



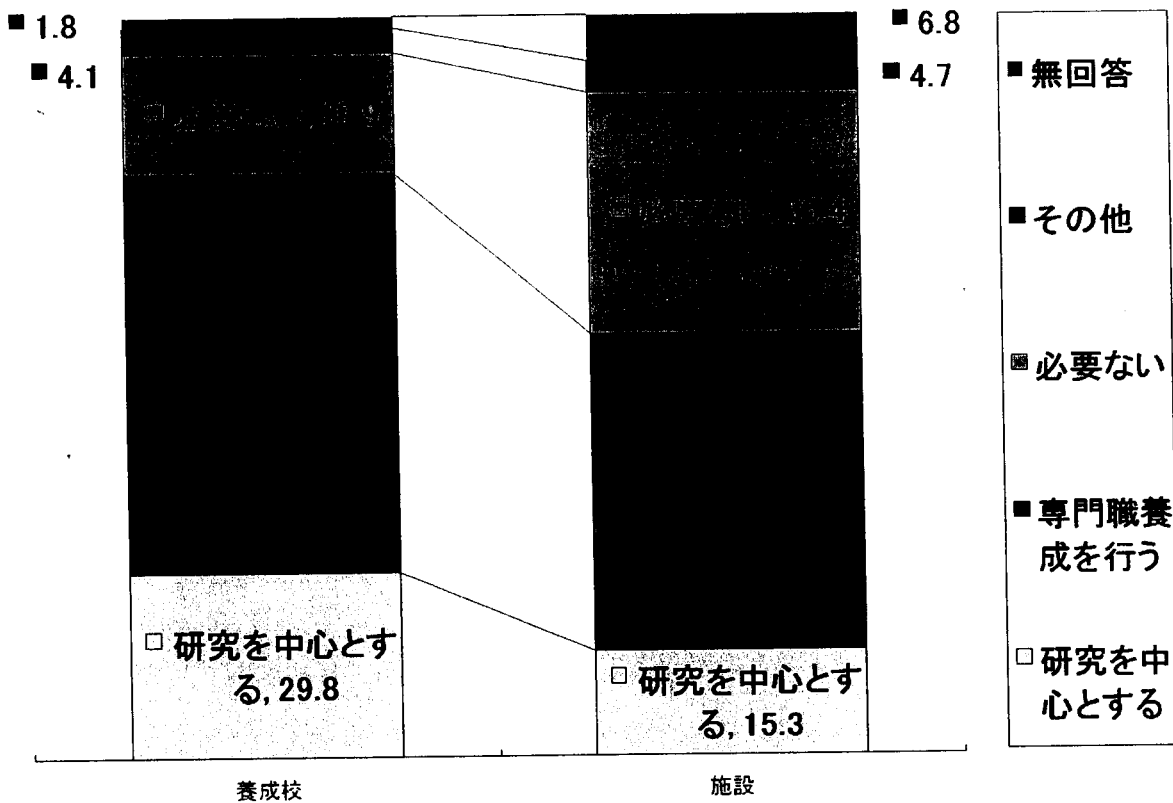
② 四年間養成課程が必要な理由(養成校/施設) * 複数回答



③ 四年間養成課程資格へのステップアップ (養成校/施設)



④ 大学院での保育士養成について(養成校/施設) * 複数回答



(4) 資格の種類

① 保育士(基礎資格、総合的)

- ・ 養成年限-----2年間(現行)
- ・ 保育士に必要な幅広い基礎的学習
- ・ 幼稚園教諭2種免許取得との関連

② ○○保育士

- ・ 養成年限-----4年間(4年制大学)
- ・ 基礎資格の上に2年間の領域別履修
コース



- ・ 相談援助・養護・障害・保育サービス等
- ・ 幼稚園教諭一種免許取得との関連

③ ○○保育士

- ・ 大学院による養成
- ・ 保育・養護・障害・家族支援・施設運営管理等に関する高度な専門性、専門的職業能力の養成
- ・ 保育領域の研究者、養成校教員等の養成
- ・ 幼稚園教諭専修免許取得

3 保育士養成課程 (平成20年度研究)

第1回検討会配布「資料1」
(平成21年11月16日)

2つの方向から養成課程を検討

A案: 現行の養成課程を基本

- 現行の養成課程をもとに、編成し直していく

B案: 新たな視点からの養成課程

- 今後の保育士に必要な専門性をもとに、養成課程を考える

保育士養成課程検討の方針 (A案・B案 共通の考え方)

- 社会の要請(保育所保育指針の改定等)に応える必修科目の検討
- 2年制養成課程の総単位数は、現行通り68単位とする
- 4年制養成課程は、2年制課程を基礎として、より専門性を深化、拡充させる
- 現職保育士等のステップアップの仕組みをつくる
- 原則として、専門科目、教養科目とも大綱化して養成校の独自性を保証する

現行の養成課程から考える A案

(1) 4年制養成課程案 (A1案・A2案)

- ・ 総単位数を90単位として、養成校の独自性をよりだせるように配慮する。
- ・ 実習の強化・充実

① 科目の改編

- ・「基礎技能」(演習)4→6単位に増加

② 科目の新設

- ・「家庭支援演習」(演習2単位)
 - * 保護者支援の具体的な方法、地域子育て支援、地域との交流や連携について学ぶ。
- ・「施設経営論」(講義2単位)
 - * 保育所保育指針「第7章 職員の資質向上」等の内容を扱う。(施設長の責務等)

③ 実習の強化

A1案

- 「保育実習ⅣまたはⅤ」を設置する。実習の充実を図るため、保育所実習または施設実習を2単位＋事前事後指導1単位。
- 「児童福祉施設インターンシップ」(必修1単位)を設置する。実質30時間程度の実地体験を自主的に行う。適切な進路選択に資するとともに、実践経験を積む。

A2案

- 「保育実習ⅣまたはⅤ」を設置。
- 専門性の充実として長期実習を実施する。
- 保育所実習または施設実習12単位＋事前事後指導1単位を置く。
- 例えば、13単位の具体案には、ガイダンスに1週、前半6週、中間カンファレンス(養成校)1週、後半6週、最終カンファレンス1週(養成校)で15週などが考えられる。長期実習にあたっては、実習指導の方法等に配慮する。

長期実習の必要性について

* 保護者支援の重要性が増加しているが、短期間の実習ではその力をつけることができない。子どもとは関われるが、保護者とのかかわりを学ぶだけの時間がない。

* 保育機能が多様化し、保育士の業務内容も複雑化している。就労場所も広がりを見せており、長期実習は必要になってきている。

新たな視点から養成課程を考える B案

(1) 4年制養成課程案

① 考え方

2年間養成期間を基盤とした専門性の深化・拡充



- ・各領域における固有の専門性
- ・高度な専門性を有するもの
(基礎的な学習後に学ぶことが適切なもの)

* 平成12年の保育士養成課程見直しの際に提示された3つの課題のうち、4年制養成のみが解決していない。

② 「2年制保育士資格」を基礎資格

- ・4年制養成課程は、2年制養成課程を学んだ後に、さらに2年間をかけて各領域の専門性を深化、拡充させる。

③ 4年制保育士に求めるもの

- ・保育についてより深く、より専門領域別に特化。
- ・多様なニーズに専門的に応えることが出来る土壌を培う。

④ 4年制保育士の資格

- ・資格は共通した1つのものとする。

⑤ 4年制保育士課程(カリキュラム)の特徴
・領域別の実習とそれに関連する科目履修

◆ 実習先の例示

相談援助: 宿所提供施設・児童家庭支援センター等

養護系: 乳児院・児童養護施設等

障害系: 障害児施設・障害者施設等

保育サービス: 保育所・認定子ども園等

◆ 実習先の範囲

(児童福祉法第18条4) 保育士の業務「児童の保育」
及び「児童の保護者に対する保育に関する指導」



子どもと保護者支援の両者、あるいはいずれかに
係わる体験学習を深めることができる範囲

◆ 実習時間

実習2単位(90時間)・実習指導 1単位

⑥ 科目履修(主として実習に関連する)

◆単位数:10単位以上

◆科目の内容

- ・科目は設定しない(大綱化・大学の独自性)
- ・人間の権利と福祉に係わる内容とする

(2) 基礎資格と4年制資格の創設

① 基礎資格(「保育士」)

保育士資格は、現行どおり2年制を基礎格
とし、4年制の保育士資格は、これをより深
化、拡充するものとして位置づける。

(平成18年度でも、保育現場への保育士の
供給の90%は、2年制養成)

② 4年制保育士資格の創設

過去2年間にわたる調査等からも、保育士としての高度な専門性を確立し、これに対する社会の信頼と認識を高めるためにも、4年制保育士資格の創設が求められている。

③ ステップアップの仕組みの必要性

仮に、4年制保育士資格を創設した場合、これまでの2年制による資格取得者及び今後取得する者に対しては、一定程度の実務経験と4年制保育士課程の固有の科目を研修等で補うことにより、4年制資格へステップアップする仕組みを設ける必要がある。

〈ステップアップの具体案〉

a おおよそ3年間の実務経験(保育士資格取得者)
4年制保育士養成課程における実習がなされたものと認める

b 教科目に相当する研修

その科目に相当する研修を養成校等で開催し、受講する。これは教員免許の10年研修が参考となる



4年制養成課程案に基づくステップアップ研修は、

A1案	18単位	15回(90分)×9科目
A2案	9単位	15回(90分)×4.5科目
B案	10単位	15回(90分)×5科目

である。

4. 大学院教育による保育士養成

- ・今回の調査結果や、近接他領域の状況から考えても、今日、大学院教育による保育士養成が必要な時代になっている。

- ・大学院の種類として、児童福祉施設現場側は、研究を中心とするものよりも、専門職を養成する大学院への期待が高い

5. 保育士養成施設(養成校)卒業に加えて国家試験を課すことについて

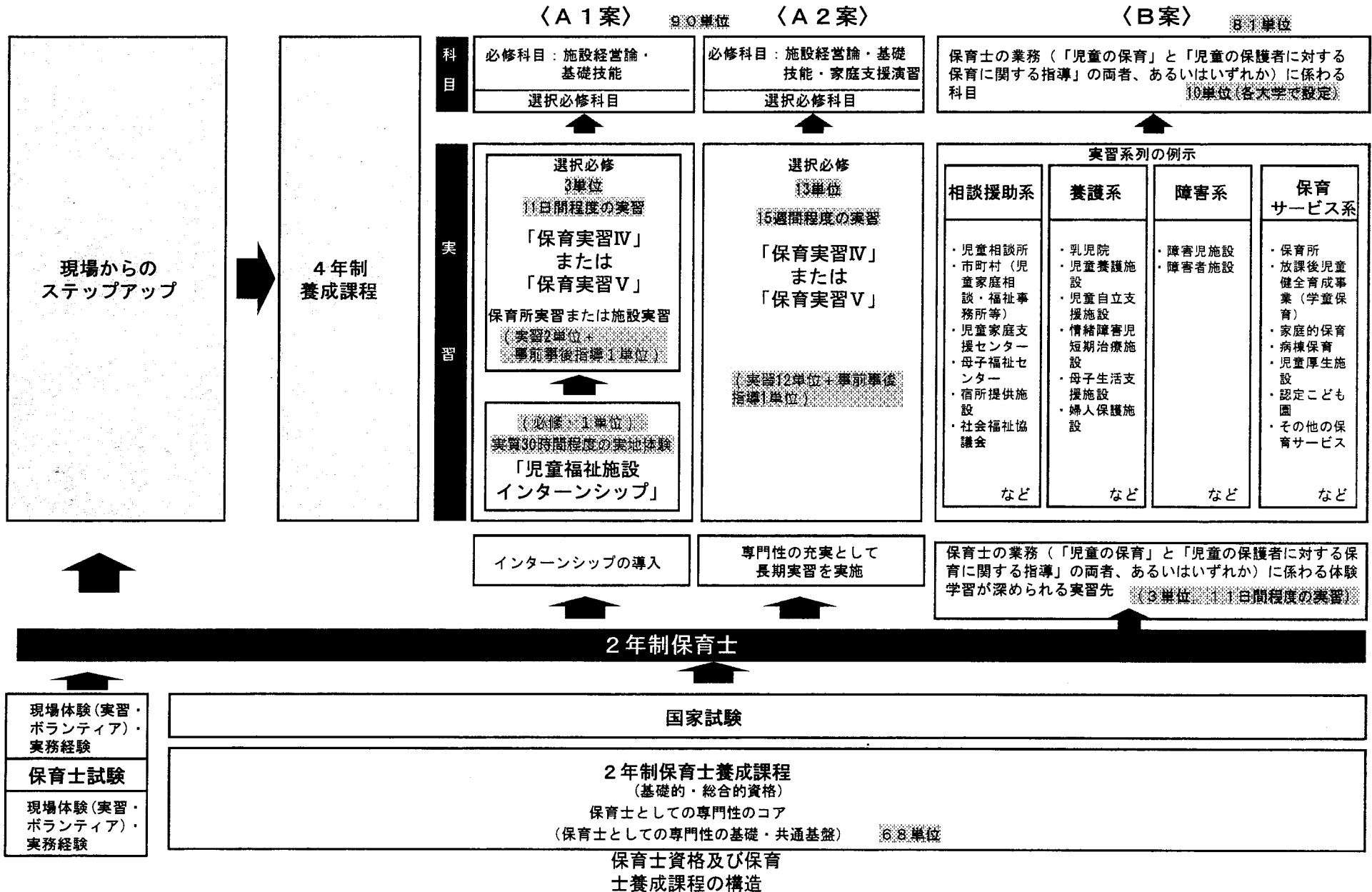
- ・国家試験制度の導入等をとおして保育士の専門性の水準を一定程度に保つことについては、肯定的、否定的の両意見

- ・施設調査では、
養成校の卒業に加え、「必要最低限レベルを確認する程度の国家試験を課す」、「難易度が高い試験を課す」など、なんらかの試験を課すことを求める意見は70%以上。

- ・養成校に対する調査では、
約40%であり、施設現場と養成校側との差は、約30ポイント。

(仮称)〇〇保育士(大学院修了・修士)

(仮称)〇〇保育士(4年制保育士)



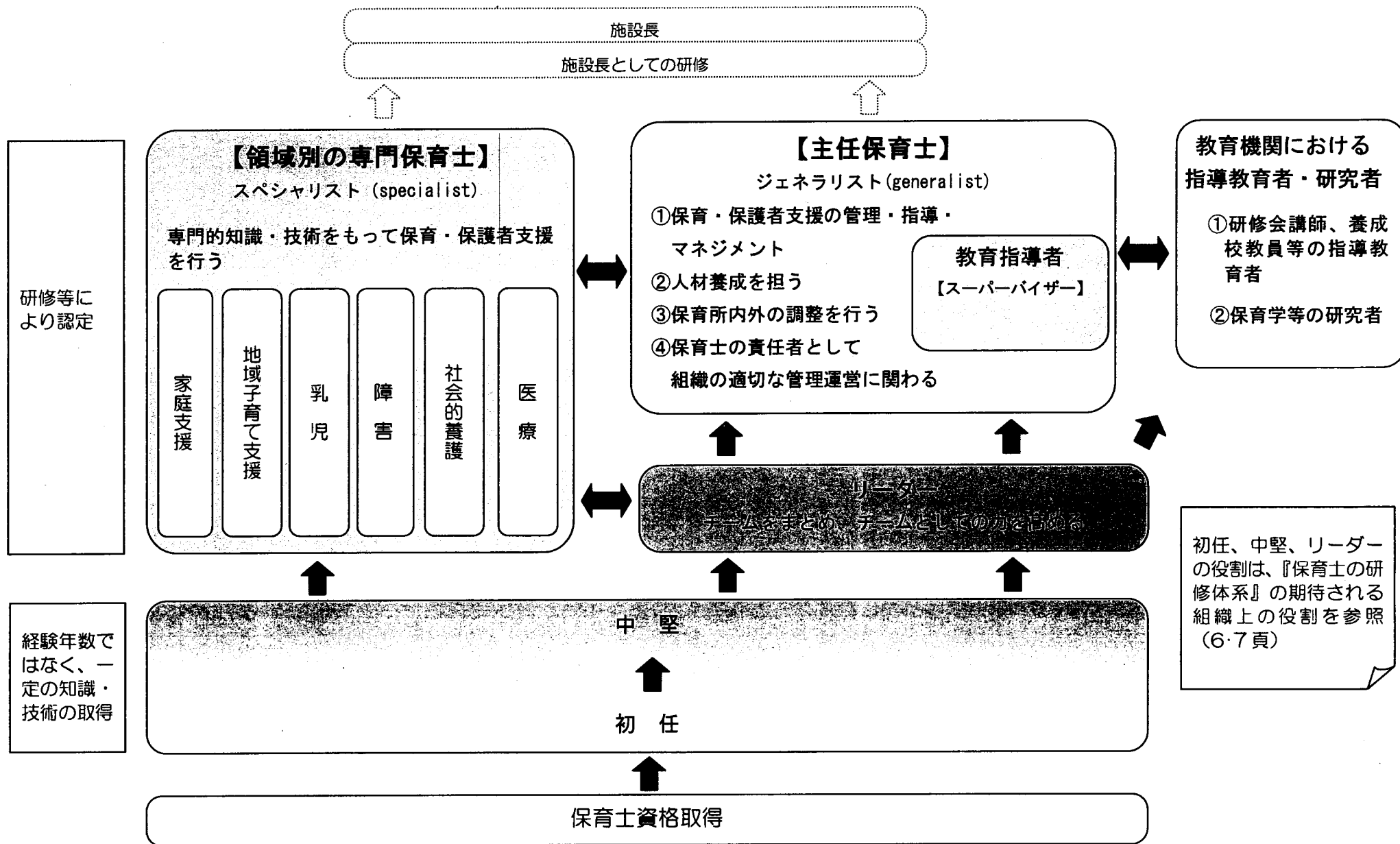
保育士の研修体系：「保育士の階層別に求められる専門性」

	1. 専門職としての基盤	2. 専門的価値・専門的役割	3. 保育実践に必要な専門的知識・技術			4. 組織性
			(1) 子どもへの保育実践	(2) 保護者への関わり・ソーシャルワーク	(3) その他	
初任者	<input type="checkbox"/> センス、感性 <input type="checkbox"/> 観察力 <input type="checkbox"/> 共感性 <input type="checkbox"/> 愛情 <input type="checkbox"/> 柔軟性 <input type="checkbox"/> 倫理観 <input type="checkbox"/> 道徳性 <input type="checkbox"/> 責任感 <input type="checkbox"/> 主体性 <input type="checkbox"/> 達成意欲 <input type="checkbox"/> 行動力 <input type="checkbox"/> 情熱	<input type="checkbox"/> 子どもの最善の利益の尊重 <input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの発達保障 <input type="checkbox"/> 専門職としての責務 <input type="checkbox"/> 保護者との協力 <input type="checkbox"/> プライバシーの保護 <input type="checkbox"/> チームワークと自己評価 <input type="checkbox"/> 利用者の代弁 <input type="checkbox"/> 地域子育て支援	<input type="checkbox"/> 子どもの発達と保健・安全・食事等の理解 <input type="checkbox"/> 保育計画・指導計画に基づく保育実践 <input type="checkbox"/> 保育実践の向上（健康、人間関係、環境、言葉、表現） <input type="checkbox"/> 指導計画の立案 <input type="checkbox"/> 記録のとり方・生かし方 <input type="checkbox"/> 応急手当等緊急時の対応 <input type="checkbox"/> 発達の気になる子や障がいのある子への対応 <input type="checkbox"/> 保育のアセスメント	<input type="checkbox"/> PDCA（保育過程、アセスメントから実施、評価、改善）の基礎的理解 <input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの置かれている状態および家庭、地域社会における生活実態の把握 <input type="checkbox"/> 基礎的な相談援助技術の理解	<input type="checkbox"/> 社会の動向、変化の理解 <input type="checkbox"/> 不審者への対応 <input type="checkbox"/> リスクマネジメント、安全管理	<input type="checkbox"/> 社会人としてのマナー <input type="checkbox"/> 職務規程、職場のルールの理解 <input type="checkbox"/> 組織における役割や連携の理解 <input type="checkbox"/> 個人情報保護の理解 <input type="checkbox"/> 研修についての理解 <input type="checkbox"/> 会議についての理解 <input type="checkbox"/> 保育士会組織の理解
中堅職員	<input type="checkbox"/> 協調性 <input type="checkbox"/> 創造力 <input type="checkbox"/> 自制心 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> 一定の生活習慣と社会的マナー（4.組織性参照）		<input type="checkbox"/> 科学的・理論的根拠に基づいた保育実践	<input type="checkbox"/> ソーシャルワークの構造理解 <input type="checkbox"/> 虐待ケースへの対応 <input type="checkbox"/> コミュニケーションのあり方の理論的理解 <input type="checkbox"/> 相談援助技術の理解	<input type="checkbox"/> 関係機関とのケース検討会議 <input type="checkbox"/> 関係法令の理解 <input type="checkbox"/> 専門性向上のための研究活動	<input type="checkbox"/> 新任職員への助言・指導 <input type="checkbox"/> 保育所全体の活動の理解 <input type="checkbox"/> 職場の課題解決手法の理解Ⅰ（自己評価）
リーダー的職員			<input type="checkbox"/> 科学的・理論的根拠に基づいた保育実践	<input type="checkbox"/> 保育ソーシャルワークの展開 <input type="checkbox"/> ソーシャルアクション <input type="checkbox"/> 関係機関・NPO・ボランティア・地域等との関わり	<input type="checkbox"/> 直近の制度・政策の理解 <input type="checkbox"/> 苦情解決 <input type="checkbox"/> 実習生の指導 <input type="checkbox"/> 体験学習・インターンシップ指導	<input type="checkbox"/> 中堅職員への助言・指導 <input type="checkbox"/> 主任保育士のサポート <input type="checkbox"/> 職場の課題解決手法の理解Ⅱ（第三者評価）
主任保育士等管理的職員		<input type="checkbox"/> 倫理綱領の指導	<input type="checkbox"/> 組織として実践の評価 <input type="checkbox"/> 保育計画の策定・評価	<input type="checkbox"/> 地域の子育ての支援（事業の創設～評価） <input type="checkbox"/> 社会的養護等関連領域との協働	<input type="checkbox"/> 保育の歴史の理解 <input type="checkbox"/> 他分野の動向理解 <input type="checkbox"/> 大規模自然災害時の対応 <input type="checkbox"/> 保育士養成校との連携・調整	<input type="checkbox"/> リーダー的職員への助言・指導 <input type="checkbox"/> スーパービジョン <input type="checkbox"/> 研修計画の策定と評価 <input type="checkbox"/> リスクマネジャー <input type="checkbox"/> 目標・方針の設定と評価 <input type="checkbox"/> 職場の課題解決手法の理解Ⅲ（福祉QC活動）

保育士のキャリアアップの構想 (たたき台)

1. 保育士のキャリアアップ

全国保育士会 特別委員会 (第5回検討結果)



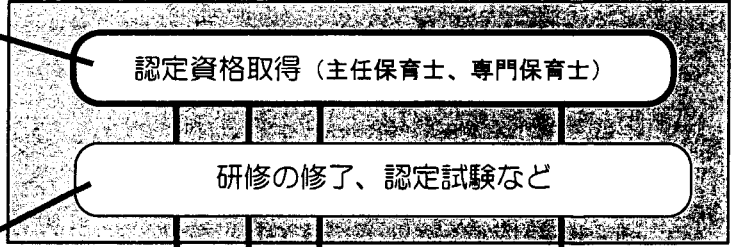
2. 資格・認定制度

全国保育士会
保育スーパーバイザー養成研修会

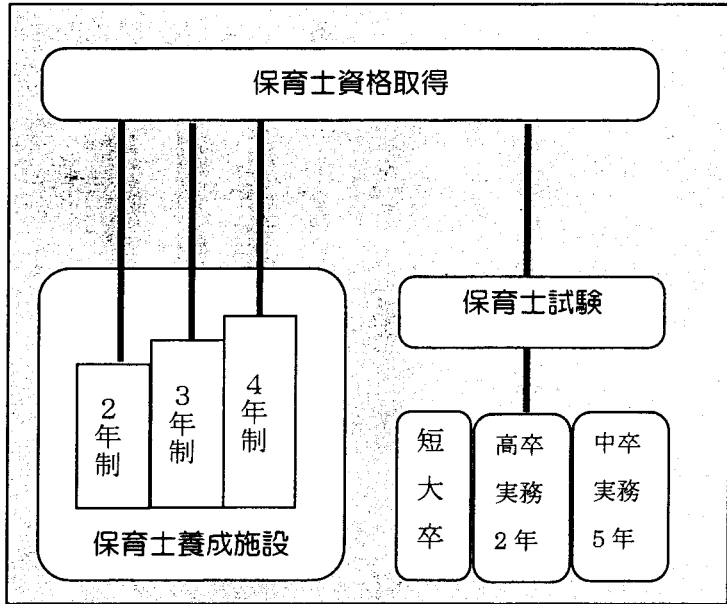
全国保育士会
主任保育士特別講座
* 実務経験 10年以上
* 修了生 約 1,500名

○主任保育士の制度的位置づけ
○専門保育士の制度的位置づけ
⇒処遇(給与の格付けなど)による対応

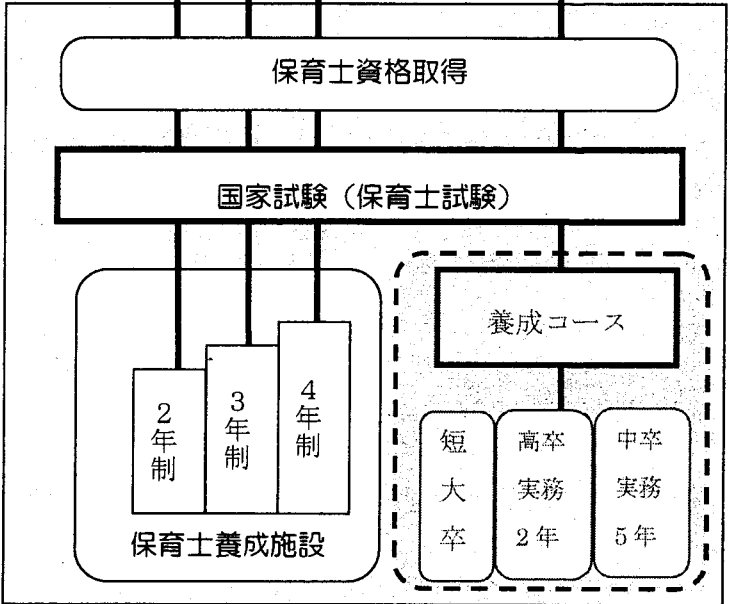
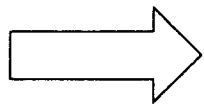
○「主任保育士特別講座」の修了
○自治体が行う試験
など



■実務経験
※0～5歳まで全年齢を担当することが望ましい



【現行の保育士資格制度】



【今後の保育士資格】

このルートは要検討

第5回保育士養成課程等検討会	参考資料1
平成22年2月26日	

第4回保育士養成課程等検討会における主な意見

- 養成課程案の中に「児童」と「子ども」という言葉が混在している。児童福祉法を根拠としているので、「児童」に統一したらどうか。
- 制度的なことや法律との関連では「児童」でよいが、「子ども」とした方がよい場合もあり、使い分けがあってもよい。
- 「養護原理」を「社会的養護」に教科名を変更する理由が判然としない。この科目は、保育所以外の入所型の児童福祉施設等において、保育士が児童の成長発達及び生活の支援を行う上での原理、原則等を考えるものである。
- 保育士資格と幼稚園教諭免許との両免取得に考慮していただく必要がある。
- 社会福祉士や幼稚園教諭免許取得のための読み替えが重視されてすぎているだろうか。
- 保育士は0歳から18歳までの児童をみるという意味では幼稚園教諭とは異なる。「保育者論」ではなく「保育士論」とし、保育と保護者支援の専門性を教授すべきではないか。
- 学校教育体系の中だけで考えていくと、保育士の専門性や専門職化の深みが曖昧になるのではと案ずる。
- 保育士と限定しないで、「保育専門職論」という形で展開していく方が広がりがあるのではないか。
- 2年制養成課程では、保育学的視点からの保育士論を基本的に伝えるべき。さらにその後の4年制段階において、“乳幼児期の保育”という特化した課程において、幼稚園教諭免許(1種)取得をも視野においた「保育者論」「保育原理」的内容を設けるべき。
- 最終的にすべての人が納得できるシラバスにすることはたいへんなことである。教科名だけははっきりと共通理解を得ておくべき。
- 保育実習に入所型施設だけでなく、通所型施設を加えることは実習先の確保に苦慮している養成校にとってはたいへんありがたい。
- 保育所では主任保育士が実習生の指導にあたる場所がほとんどであるが、負担も大きい。実習指導を担当する主任保育士の制度的位置づけと指導体制の整備を望む。
- 保育実習の評価基準が曖昧である。
- 「保育の心理学」の内容は、保育所保育指針に即して、心理学が本当に保育現場で役立つものとなっているという印象を持った。
- 保育所保育指針解説書に明記されている保育士の6つの専門性や、児童福祉法の「保護者に対する保育に関する指導(保育指導)」の体系化が検討されるべきであり、養成課程でも配慮

していただきたい。

- 科目間を横断していくような学び、科目間のつながりが明確になっていくような内容として養成課程を提示していけたらよい。
- 講義と演習では時間数が異なるので、次回、実際の時間数の増減などについて示す必要がある。2年制課程では時間的にかなり厳しい状況がある。

- 保育士試験で資格を取得する場合と養成校での養成とで、これまで以上に差が出てしまうのではないかと危惧する。
- 養成課程では実習が重視されているのに、保育士試験では実習がないなど、課題は大きい。養成課程の改定内容が試験に十分反映されるのは難しいと感じる。
- 相談援助や保護者支援に関わる内容や保育指針の改訂内容を含ませるなど、保育士試験の出題範囲は今一度見直す必要がある。
- 保育士試験における「保育実技」の「身体表現・言語表現に関する技術」で、「身体」と「言語」を括るのは無理ではないか。
- 保育実習実技は養成課程案の「保育表現技術」の教授内容と重ねられている。子どもの遊びや保育の具体的展開のための技術を問う実技試験の内容はどうあるべきかを考えることが必要。
- 保育技術として、保育課程をつくったり、保護者支援を行ったりといったことも重要であり、実技試験で保育技術を問うのは難しいと思う。何が保育士の基本的な技術であるのか改めて見直すことも必要。
- 多様な人材を保育界に送り込むという意味では試験制度の持つ意味があると思う。
- 養成校で学ぶ方がよいと一概には言えず、養成校の教育力や室の担保も重要な課題である。
- 養成課程と試験と両方の資格取得方法が両立、併存してきた歴史や時代的背景があった。今後、将来の動向を踏まえて保育士試験や養成制度をどうするべきか検討することが必要だろう。

- 養成校を卒業する時点でどこまでの専門性を担保するか。2年制のみならず、4年制、大学院教育まで含めて保育士の専門教育について考えていくことが将来的には必要である。
- 養成校の教育の質を担保する仕組みをどこかできちんとしなければいけない。保育士と幼稚園教諭の区別がつかない者が教えていたり、専任教員が1, 2名で回しているなどという状況がある。

第5回保育士養成課程等検討会	参考資料2
平成22年2月26日	(網野委員提出資料)

意見書

検討委員 網野 武博

これまでの検討会の議論を経て、相当に方向性や内容が固まってきました。この重要な時期にあつて、残念ながら2月26日の第5回検討会に出席することができません。そこでとくに強調したい意見がございますので、以下の通り表明致します。よろしくご検討いただきたくお願い致します。

本検討会では、68単位で構成される教科目を2年制で習得できることを基本としてまとめられました。しかも、現行の社会福祉士資格を取得しやすい方向で、また今後さらにすすむ幼保一体化の方向性を睨み、幼稚園免許を取得しやすいようにという観点がかかり重視されるようになり、科目名や目標・内容に影響を及ぼしはじめています。

このため、とくにカリキュラム案「保育者論」、「相談援助Ⅰ、Ⅱ」の科目名及びその内容について、本質的な保育の専門性、ひいては保育士の専門的基盤が保育学であるという今後重要なアイデンティティ形成を明瞭にしその専門性を維持向上させる上では、無視できないきわめて曖昧な視点を含んでしまったことを危惧致します。

今回の案が、2年制ということの基本とする場合、ある意味でやむを得ない面があることは理解できますが、しかし望ましい視点からいいますと、まず「保育者論」は「保育士論」であるべきです。前回の検討会で述べましたように、保育士の本来の役割機能と専門性を踏まえるならば、幼稚園教員の役割機能と専門性とは一部が重なっているに過ぎません。2年制養成課程では、保育学的視点からの保育士論を基本的に伝えるべきです。さらにその後の4年制段階において、“乳幼児期の保育”という特化した課程において、十分に幼稚園教諭免許(1種)取得をも視野においた「保育者論」「保育原理」的内容を設けるべきです。なおこれに関連して申し上げれば、現行保育士試験制度において、幼稚園免許取得者の科目履修の範囲を広げたことも、本検討会においては、「保育士論」とすることを促すものです。

次に、「相談援助Ⅰ、Ⅱ」も全く同様の趣旨で、「保育における相談援助Ⅰ、Ⅱ」であるべきです。第1回の検討会の場で述べましたように、2年制養成課程では、社会福祉における援助技術(相談援助技術)というよりも保育における相談支援、保護者支援、地域子育て支援に関する保育の専門性として伝えるべきです。さらにその後の4年制段階において、“保育ソーシャルワーク”という特化した課程において、社会福祉援助技術と非常に重なり、かつ社会福祉士資格取得をも視野においた「相談援助」のような科目名や内容の科目を設けるべきです。

以上申し上げたことは、現状におけるまた近未来における保育士養成課程、とくに2年制及び4年制のあり方と深く関連し、また養成型と試験型の併存に関する検討ひいては国家試験制度のあり方とも深く結びついています。遠くない時期に、これらに関する検討を積極的にすすめることを強く望む次第です。

保育士養成課程の改正内容について

[改正内容]

○科目の新設

保育者論
保育課程論
保育実習指導Ⅱ、Ⅲ

○科目の統合

保育の心理学(「発達心理学」と「教育心理学」)
児童の保健(「小児保健」と「精神保健」)

○単位数の減

選択必修科目(保育実習以外の科目) 8単位→6単位

○科目名の変更

児童福祉→児童家庭福祉
養護原理→社会的養護
小児栄養→児童の食と栄養
家族援助論→家庭支援論
保育内容→保育内容総論、保育内容演習
養護内容→社会的養護内容
社会福祉援助技術→相談援助、保育相談支援
基礎技能→保育表現技術
総合演習→保育実践演習

○科目の新設

■「保育者論」(講義2単位)

◇「保育原理」から保育士の役割と責務に関する内容を「保育者論」として独立させる。

■保育課程論(講義2単位)

◇保育の全体計画である「保育課程」を中心として、計画・実践・省察・評価・改善というサイクルを通じて保育を進めていくこと(カリキュラム・マネジメント)を動的に理解する科目とする。教科名を「保育の計画と評価」とした場合、指導計画等に係る手続き論に矮小化されて理解される恐れがあるため「保育課程論」とする。

■「保育実習指導Ⅱ又はⅢ」(演習1単位)

◇保育実習指導Ⅱ又はⅢにおいても、保育実習Ⅰと同様「保育実習指導」を設け、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

○科目の統合

■「保育の心理学」（←「教育心理学」「発達心理学」）（講義2単位：演習1単位）

◇「教育心理学」と「発達心理学」を統合し、発達に応じた子ども理解や学びの過程について、保育実践と関連付けながら理解する。「保育心理学」は、学問領域として確立されているとはいえないため、発達や学習に関する心理学を保育との関連で学ぶ科目とし「保育の心理学」とする。

■「児童の保健」（←「小児保健」「精神保健」）（講義4単位：演習1単位）

◇児童福祉施設の子どもの心身の保健について、総合的に理解するために、「小児保健」と「精神保健」の内容を統合する。また、児童福祉法における「児童」（0-18歳未満）の定義を踏まえ、「小児」ではなく「児童」とする。

○科目名の変更

■「児童家庭福祉」（←「児童家庭福祉」）（講義2単位）

◇児童の福祉の増進とともに、児童の家庭を含めて支援する体制や施策が必要となる中で、「児童家庭福祉」が浸透し一般的になっている状況を踏まえ、変更。

■「社会的養護」（←「養護原理」）（講義2単位）

「社会的養護内容」（←「養護内容」）（演習1単位）

◇児童家庭福祉の観点から児童の健全育成に係る支援体制や「社会的養護」の重要性が強調されている状況を踏まえ、変更。

■「児童の食と栄養」（←「小児栄養」）（演習2単位）

◇児童（0-18歳未満）の栄養に関する基本的理解に基づき、栄養指導や食育の重要性を踏まえ、「食と栄養」とする。

■「家庭支援論」（←家族援助論）（講義2単位）

◇「家族」から「家庭」を含めた支援体制や支援のネットワークが重要視されていることや、「児童家庭福祉」「社会的養護」等の科目との関連を踏まえ、「家庭支援論」とする。

■「保育内容総論」（演習1）「保育内容演習」（演習5）（←「保育内容」6単位）

◇「保育内容」を分割し、総論と演習の違いを明確にするとともに、総論を理解した上

での演習履修となるようにする。

■「保育表現技術」(←「基礎技能」)(演習4単位)

◇従来の「基礎技能」から、保育における表現に係る保育技術を学ぶ科目であることをより明確に示す。特に、「表現」を広く捉え、子どもの経験や保育の環境を様々な表現活動に結びつけたり、遊びを豊かに展開するために必要な技術を習得できるようにする。

■「相談援助」「保育相談支援」(←「社会福祉援助技術」)(演習各1単位)

◇保育所における相談支援や保育士の保護者支援に係る実践力を育成するため、「相談援助」では従来の「社会福祉援助技術」を踏襲し、「保育相談支援」においては保育における保護者支援を中心に、相談支援の基礎的技術を習得する。

◇他資格の取得(科目の読み替え等)に配慮した教科名とする。

■「保育実践演習」(←「総合演習」)(演習2単位)

◇既に、平成21年2月、幼稚園教諭免許取得科目における科目名の変更(「総合演習」から「教職実践演習」への変更)に伴い、「保育実践演習」に変更済み。

■「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」(←「保育実習Ⅱ又はⅢ」)(各実習2単位)

◇「保育実習Ⅱ又はⅢ」を分割し、保育所実習(Ⅱ)と保育所以外の施設実習(Ⅲ)の内容をそれぞれに示す。

■「保育実習指導Ⅱ又はⅢ」(演習1単位)

◇保育実習指導Ⅱ又はⅢにおいても「保育実習指導」を設け、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

第5回保育士養成課程等検討会	参考資料4 (山本委員提出資料)
平成22年2月26日	

横浜市子ども青少年局 保育運営課実施研修(H22年度計画)

研修名	研修の概要(予定)		対象	募集人数
	回数	研修内容		
市立保育所定例園長研修	6	市立保育所園長のスキルアップのための研究活動(グループワーク)を主とした研修	施設長(市立のみ)	600
保育リーダー研修	2	主任保育士を対象としたスキルアップ研修(グループワーク他)	保育士	160
保育理念講座	1	保育理念について学び、保育の質を高めていく研修	保育所等職員	1,000
保育所職員定例研修	8	保育所保育士等のスキルアップのための研究活動を主とした研修(別途発表会を実施)	保育士、看護師等	880
子育て支援研修	3	保育所の子育て支援、地域支援の充実を目指す研修	保育士、施設長	300
家族援助論研修	1	家族支援に必要な知識とスキルを習得するための研修	保育士、看護師、施設長	180
相談援助研修	3	家族支援に必要な知識とスキルを習得するための研修	保育士、施設長	180
ソーシャルワーク研修	1	家族支援、保育実践に必要なソーシャルワークスキルを習得するための研修	保育士、施設長	110
障害児保育講座	8	障害児に対する理解を深めていくとともに、障害児保育を行うにあたって必要な知識と技術を学ぶ研修	保育士、看護師、施設長	1,440
障害児保育実地研修	1	療育センターにおける実施研修	保育士	100
保育実践講座	5	遊び方等、保育の場で活用できるスキル等の習得を目指す研修	保育士	420
乳児保育研修	1	乳児保育に携わる保育士等を対象とした研修	保育士、看護師	180
乳幼児保健研修	1	乳幼児の健康や発達等に関する知識の習得を目指す研修	保育士、看護師、施設長	180
歯の保健指導法研修	3	歯の磨き方の指導等、歯科保健に関する実技を含む研修	保育士、看護師	90
救急法研修	5	応急処置、蘇生法等に関する実技を含む研修	保育士、看護師等	200
保育所福祉員研修	1	公立保育所の時間外託児福祉員を対象とした研修	時間外託児福祉員	700
保育施策講座	1	保育施策について学ぶ研修	保育所等職員	250
保育所看護職研修	1	保育所の看護職員として必要な知識等の習得を目指す研修	保育士、看護師、施設長	150
市立保育所アルバイト保育士研修	2	主として障害児保育に携わるアルバイト保育士を対象とした研修	保育士(市立のみ)	120
幼児食調理実習研修	12	保育所給食メニューの調理実習	栄養士、調理員	300
乳児食講習会	1	離乳食を中心に、こどもの発達に合わせた食事とその供し方等に関する研修	保育所等職員	550
食育研修会	1	保育所における食育推進のための講演や事例発表など	保育所等職員	550
乳児食調理実習研修	4	保育所給食メニュー(離乳食)の調理実習	栄養士、調理員	100
衛生管理講習会	1	衛生管理に必要な知識を習得するための研修	保育所等職員	550
市立保育所新任調理担当職員研修	1	新任の調理員を対象とした初任者研修	保育士(市立のみ)	50
認可外保育施設職員研修	3	認可外施設職員を対象とした研修	保育所等職員	320
家庭保育福祉員研修会	2	家庭保育福祉員を対象とした研修	保育所等職員	80
保育所職員人権研修	1	保育所等職員を対象とした人権研修	保育所等職員	180
	80			9,920